

消費者物価指数のしくみと見方

—2015 年基準消費者物価指数—



総務省統計局

は じ め に

総務省では、物価の動きを捉えるために消費者物価指数を作成し、毎月公表しています。この指数は、消費者が購入する商品（財やサービス）について、物価の変化を総合的かつ客観的に表すものであり、多方面で利用されています。しかし、名前や数値はよく目にするものの、消費者物価指数のしくみがよく分からない、公表される指数の動きが生活実感と合わない、といった声も聞かれます。

本書は、多くの方々に消費者物価指数を正しく理解していただくために作成したもので、指数のしくみや利用上の注意点をできるだけ分かりやすく説明するよう心がけました。

本書についてお気付きのことがありましたら、総務省統計局 統計調査部消費統計課 物価統計室（電話 03-5273-1175）に御連絡ください。

平成 28 年 8 月

総 務 省 統 計 局

目 次

1 消費者物価指数とは

(1) 消費者物価指数とは何か	1
(2) 消費者物価指数の利用	5

2 消費者物価指数の作り方

(1) 基本的な考え方	7
(2) 基準時	8
(3) 指数品目	10
(4) ウェイト	15
(5) 価格調査	18
(6) 指数の計算	22
(7) 指数の公表	27

3 消費者物価指数の見方

(1) 物価の動きを分析するために	28
(2) 変化率	29
(3) 物価の変動要因	31
(4) 指数と実感	35
(5) 長期時系列での比較	39

付録

1	指数品目及びウエイト一覧（全国）	40
2	基本分類の構成品目	47
3	財・サービス分類の構成品目	54
4	消費者物価指数の閲覧及び入手先	58



1 消費者物価指数とは

(1) 消費者物価指数とは何か

個々の商品の価格変化を総合したものが物価指数です。

私たちは、日常生活で様々な商品（財やサービス）を購入しています。例えば、豚肉 100g 220 円、キャベツ 1 kg 210 円、ブラウス 1 枚 3,500 円、映画観覧料大人 1 回 1,800 円、理髪料大人 1 回 3,800 円といった具合です。個々の商品の価格は、高くなったり安くなったり、色々な動きをします。そこで、私たちが購入する商品の平均的な価格変化、すなわち物価の動きを見るには、たくさんの商品の価格の変化を総合して考える必要があります。

物価の動きをある時点と比べて、
比率のかたちで表した数値が物価指数です。

物価が上がった又は下がったというときには、昨年と比べて、あるいは先月と比べてどうかというように、ある時点と比べて考えています。そこで、物価の動きは、比較の基準となる時点を決めて、その時の物価に対してどの程度上昇（又は下落）

1 消費者物価指数とは

したかを比率のかたちで見るのが一般的です。そして、物価の動きを比率で表したものを物価指数といいます。物価指数は、物価の動きを主観的な感じ方ではなく、より客観的に分かりやすく、数値として表したものです。ちょうど、温度計が日々の暑さ寒さを測るように、物価指数は物価の動きを測る物差しの役目を果たしています。

物価指数には、商品の流通過程に応じて
消費者物価指数、企業物価指数などがあります。

物価を問題にするとき、私たちはたくさんの商品の価格を対象に考えています。しかし、商品の価格には、生産者が出荷するときの生産者価格、卸売業者が小売店などに販売するときの卸売価格、小売店が消費者に販売するときの小売価格など、商品の流通過程に応じて幾つかの段階があります。それぞれの段階で取引される商品の種類と価格は異なります。例えば、出荷や卸売の段階では製品を作るための原材料や工作機械を含むので、一般の消費者が購入する商品とはその種類（範囲）が異なり、価格の動き方も同じではありません。したがって、物価の動きはそれぞれの段階ごとに捉えることが必要です。

我が国では、小売段階の財及びサービスの物価の動きを示す消費者物価指数のほか、企業間で取引される財の価格に焦点を当てた企業物価指数、企業間で提供されるサービスの物価変動を捉える企業向けサービス価格指数などが作成されています。

1 消費者物価指数とは

小売段階の物価の動きは消費者物価指数（CPI）で見ます。

消費者物価指数は、日常生活で私たち消費者が購入する商品の価格の動きを総合して見ようとするもので、私たちが日常購入する食料品、衣料品、電気製品、化粧品などの財の価格の動きのほかに、家賃、通信料、授業料、理髪料などのようなサービスの価格の動きも含まれます。

消費者物価指数は総務省統計局が作成しており、略称ではCPI（Consumer Price Index）と呼ばれています。

消費者物価指数の歴史は古く、第二次世界大戦直後の1946年に初めて作成され、当時の激しいインフレーションを計測するのに使われました。その後も日本経済の「体温計」の一種として、重要な役割を果たしています。

生産者の出荷又は卸売段階における財の物価の動きは
企業物価指数（CGPI）で見ます。

これに対して企業物価指数は、会社や工場、商店など企業相互間で取引される財の価格変動を総合的に捉えようとするものです。ですから、この指数で調べる財は農林水産物や工業製品だけでなく、鉄鉱石、原油など製品を作るための原材料や、旋盤などのような工作機械も含まれています。

このように、消費者物価指数と企業物価指数では、調査品目の対象範囲や調査する価格の取引段階が異なりますので、二つの指数の動きを比較する際は、対象品目を合わせるなどの注意が必要です。

1 消費者物価指数とは

NOTE

我が国における代表的な物価指数

		取引段階	
		企業間取引段階	小売段階
対象	財	企業物価指数 (日本銀行作成)	消費者物価指数 (総務省統計局作成)
	サービス	企業向け サービス価格指数 (日本銀行作成)	

我が国では物価指数として、商品の流通過程に応じて消費者物価指数、企業物価指数などが作成されています。消費者物価指数では小売段階における財とサービスの両方を対象としますが、財・サービス分類別に集計した指数も公表しています。

1 消費者物価指数とは

(2) 消費者物価指数の利用

消費者物価指数は、国や地方自治体の経済施策などにとって大変重要な指標となっています。

政府は毎年目標を立てて経済施策を実施しますが、この中でも消費者物価の安定が中心的な課題の一つとなっています。また、2013年1月22日に発表された政府及び日本銀行の共同声明「デフレ脱却と持続的な経済成長の実現のための政府・日本銀行の政策連携について」においては、物価安定の目標として、消費者物価指数の前年比上昇率で2%とすることが掲げられています。それゆえ、日本銀行が金融政策を決定する際には、消費者物価指数が重要な判断材料の一つとなっています。

このほか、国や地方自治体の消費者行政などにも広く活用されています。

家計収支や賃金などの他の統計において
実質化のためのデフレーターに利用されています。

異なる時点の経済活動を比較するときには、名目値（額面どおりの値）の変化に加えて、その間の物価変動の影響を考慮することもあります。物価変動の影響を取り除いた実質値は、名目値を物価指数で割ることによって求められます。この際に使う物価指数をデフレーターと呼び、消費者物価指数は、家計収支や賃金などの実質化のデフレーターとして利用されています。

1 消費者物価指数とは

消費者物価指数は、公的年金の給付額などを物価の動きに応じて改定するための算出基準となっています。

厚生年金、国民年金などの公的年金の給付水準は、前年の消費者物価指数の変化率を基準の一つとして調整されることが法律で定められています。これは、消費者物価指数が、消費者が購入する各種商品の価格変化を総合したものであるからです。

NOTE

消費者物価指数の各種法令に基づく利用例

➤ **国民年金法、厚生年金保険法、国家公務員共済組合法**

- ・年金額の改定

➤ **児童扶養手当法**

- ・児童扶養手当額の改定

➤ **都市再開発法施行令**

- ・補償金の支払いに係る修正率の算定

➤ **国土利用計画法施行令**

- ・土地の価格にかかる修正率の算定

➤ **土地収用法第 88 条の 2 の細目等を定める政令**

- ・損失の補償に関する修正率の算定

上記以外にも船員保険法、原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律、地方公務員等共済組合法など、多くの法令で消費者物価指数を用いる規定が設けられています。

2 消費者物価指数の作り方

(1) 基本的な考え方

暮らしに必要な商品を全て、一つの買物かごに入れて、
買物かご全体の費用が時点によってどう変わるかを考えます。

消費者物価指数は、約 150 年前にドイツのラスパイレスという経済学者が考案した計算式（ラスパイレス式）で作成されます。日本だけではなく、世界の多くの国々でもこの計算式が採用されています。これは、簡単にいえば次のような方法です。

2015 年の 1 年間に、私たちが実際に買った商品を調べて、これらを全て、一つの大きな買物かごに入れたとしましょう。例えば、月平均にすると、米 6 kg、牛肉 500g、トマト 1,000g、ビール（350ml）5 缶、水道料 20 m³ 分、靴下 1 足、ビタミン剤 1 箱、バス代 4 回、新聞代、習い事の月謝、家賃……というようになります。

これらを買うのに全部で 30 万円掛かったとします。次に、同じものを翌年 2016 年に買ったとしましょう。買物かごの中身は同じですが、個々の商品の値段は上がったたり下がったりしていますので、この買物をするための費用は前年と同じではありません。仮に 31 万円だったとすると、物価が上がったことによって前年に比べて 1 万円多く掛かったことになります。買物かごの中の商品全体の値動きを指数

2 消費者物価指数の作り方

化してみましょう。2015 年の 30 万円を 100 とすると、2016 年の 31 万円は、比例計算で 103.3 となります。これが 2015 年を基準とした 2016 年の消費者物価指数です。

つまり、消費者物価指数とは、私たちの暮らしに必要な商品（財やサービス）を買物かごに入れて、その買物かご全体の費用が物価の動きによって幾らに変わったかを指数で表したものだといえます。

(2) 基準時

比較の基準となる年（基準時）に買物かごの内容を固定して、月々の費用の変化を測定します。

物価指数は、ある基準となる時点の物価を 100 として、その時々の物価を比較計算した数値です。

まず、比較の基準となる年（基準時）を定めます。次に、この基準時の買物の内容に基づいて買物かごの中に入れる商品とその数量を決め、その時の費用を 100 としてその後の変化を指数で表します。この買物かごの中の商品や数量をその都度変えたりすると、費用の変化が、価格が動いたためなのか、買物かごの内容が変わったためなのか、はっきりしなくなります。そこで、買物かごの内容を基準時に固定して、物価の変化だけを測れるようにしています。

現在、総務省で公表している消費者物価指数は、基準時を 2015 年とした「2015 年基準指数」です。

2 消費者物価指数の作り方

基準時を5年ごとに改定し、
買物かごの内容が物価の動きを正しく反映するようにしています。

しかし、時間と共に消費生活の内容が変化しますので、いつまでも買物かごの内容を固定しておくと、現実を買う個々の商品の数量や購入する商品そのものが違ってくるため、物価指数が現実の物価の変化を正確に捉えることができなくなってしまうおそれがあります。そこで、時々買物かごの内容を変えなければなりません。

消費者物価指数やその他各種の経済指数は、西暦年の末尾が0と5の年を基準時として、5年ごとに改定（基準改定）することにしています。

基準改定時には、新たな基準年を100として、
過去の指数を換算し、接続しています。

消費者物価指数では5年ごとに、基準時と買い物かごの内容（後述の指数品目及びウエイト）を改める基準改定を行います。消費者物価指数は時間の経過による物価の動きを見るものですから、過去に遡って比較が行えるように、基準改定の都度、新たな基準時に合わせて過去の指数系列を換算し、接続しています。指数の換算は、下記のような比例換算の方法によって行います。

2010年基準指数を2015年基準に接続する場合の計算式

$$\text{2015年基準接続指数} = \frac{\text{2010年基準指数} \times 100}{\text{2010年基準の2015年平均指数}}$$

2 消費者物価指数の作り方

(3) 指数品目

買物かごに入れる商品は、「家計調査」の結果を基に選び、選んだ商品を指数品目と呼んでいます。

消費者物価指数は、買物かごの内容全体の購入費用を比較するものですから、買物かごの中にどのような商品（財やサービス）を入れるかということが重要な問題の一つになります。もちろん、消費者が購入する全ての商品を網羅できれば、それに越したことはありませんが、現実には不可能なことです。そのため、家計の上で重要度の高い商品を代表として選び、その価格を調べることにしています。この選定した商品を指数品目と呼んでいます。

私たちの家計に直接影響する物価の変動をできる限りの確に捉えるためには、私たちが購入する様々な商品の中から、重要度の高いものを適切かつ客観的に選ばなければなりません。そこで消費者物価指数の指数品目には、「家計調査」で消費者が実際に記入した家計簿の集計結果を基にして、支出額の多い品目を選んでいきます。

この「家計調査」とは、統計法(平成 19 年法律第 53 号。以下同じ。)に規定されている「基幹統計調査」の一つで、全国の世帯の家計の実態を明らかにすることを目的としています。この調査では、全国の市町村の中から 168 市町村を調査市町村として選定し、調査市町村から調査地区を、調査地区から調査世帯を、それぞれ無作為に選定します。このように選定された約 9,000 世帯に毎月家計簿の記入を依頼し、毎日の収入と支出について詳細な調査を行います。

2 消費者物価指数の作り方

指数品目は、家計の消費支出の中で重要度が高いもの、価格変動を代表できるものを選びます。

指数品目には、消費生活の上で重要な商品（財やサービス）を偏らないように選ぶなければなりません。このため、家計調査の結果（1世帯当たりの平均）を基に、家計の消費支出の中で支出額の高い品目を、例えば、米、パン、牛乳、卵、冷蔵庫、背広、セーター、電気代、ゴルフプレー料金というように選んでいきます。支出額の極めて低い品目は、その値動きが他の品目で代表されると考えて選びません。

なお、消費支出の中でその品目の支出額がどれだけの割合かを示している数字を、その品目の**ウエイト**（15 ページ参照）といいます。

指数品目を選ぶ場合のもう一つの重要な点は、同じ種類の商品の値動きに対して代表性のある品目を選ぶということです。市場に出回る様々な商品の価格を全て調査できる訳ではありません。そのため、同じ種類の商品の値動きを代表でき、かつ、毎月続けて調査できる品目を選ぶ必要があります。食料品のうち大豆加工品類を例にとると、大豆を原料として調理された製品には多くの種類がありますが、この中から支出額が高い「豆腐」、「油揚げ」、「納豆」を大豆加工品類の値動きを代表する品目として選んでいます。また、台所・住居用の洗剤には、台所用、風呂用、トイレ用など様々な種類がありますが、これらの値動きは近いと考えられるので、「台所用洗剤」を代表的な品目として選んでいます。

なお、同種類の商品の中から代表的なものを取り出して指数品目としているので、指数計算の過程では、例えば、「台所用洗剤」には、「台所・住居用洗剤」全体のウエイトを持たせるようにしています。

2 消費者物価指数の作り方

直接税や土地購入などは指数品目に含めません。消費税などの間接税は商品の価格の一部として消費者物価指数に含まれています。

指数品目の範囲は、家計で消費する商品（財やサービス）に対する支出（消費支出）を対象としています。したがって、所得税、住民税などの直接税や社会保険料などの世帯の自由にならない支出（非消費支出）は指数品目に含めません。また、預貯金、保険料、有価証券購入、土地や住宅購入などの支出（貯蓄及び財産購入のための支出）も含めません。例えば、貯蓄は将来のために蓄えるもので、貯蓄された段階では消費のために支出したとは見られません。また、土地や住宅の購入などの財産購入も資産が増加したという見方から、そのままでは消費者物価指数の対象に含めないことにしています。

一方、消費税などの間接税は、消費支出に含まれているので、商品の価格の一部として消費者物価指数に含まれています。例えば、2014年4月に消費税率が5%から8%に改定された際には、消費者物価指数（2014年4月の全国総合指数）は前年の同じ月に比べて3.4%の上昇となりましたが、この上昇率には消費税率改定の影響が含まれています。

NOTE

消費者物価指数に含まれない支出の例

➤ 消費支出の一部

信仰・祭祀費、寄付金、贈与金、町内自治会費 等

➤ 非消費支出

直接税、社会保険料 等

➤ 実支出以外の支払

預貯金、保険料、有価証券購入、財産購入、借金返済 等

2 消費者物価指数の作り方

持家の住宅費用は、自己所有の住宅から家賃相当額（持家の帰属家賃）のサービスを購入しているとみなして対象に含めます。

ところで、住宅や土地の購入費は消費支出ではないことから指数品目に含めていませんが、持家に住んでいる世帯（持家世帯）は、自己が所有する住宅からのサービスを現実を受けていることは確かです。そこで、何らかの方法で持家世帯の住宅費用を測れないかという問題が出てきます。

持家世帯が住んでいる住宅を借家だと仮定すれば、そのサービスに対し当然家賃を支払わなければなりません。そこで、持家の住宅から得られるサービスに相当する価値を見積もって、これを住宅費用とみなす考え方が成り立ちます。このような考え方に基づいて、持家の住宅を借家とみなした場合に支払われるであろう家賃を指数品目に含めています。その家賃を「持家の帰属家賃」と呼んでいます。

指数の計算に当たっては、総務省で実施している全国消費実態調査（統計法に基づく基幹統計調査）結果の持家の帰属家賃額を基に、住宅の構造及び規模ごとにウェイトを求め、それに対応する持家の帰属家賃の動きは、小売物価統計調査（統計法に基づく基幹統計調査）で調査している民間借家の家賃の動きを用いています。

このように、消費者物価指数には、土地や住宅の購入費そのものは含めていませんが、帰属家賃方式により持家世帯の住宅費用を算入しています。これは国際基準に沿った取扱いであり、多くの国でも同様の取扱いをしています。

2 消費者物価指数の作り方

指数品目は、家計の消費支出の実態を十分に反映できるように
585 品目を選んでいきます。

このようにして、2015 年基準の消費者物価指数では、2015 年の家計調査の結果を基に、家計の上で重要な商品（財やサービス）として選定した 584 品目に「持家の帰属家賃」1 品目を加えた 585 品目（沖縄県のみで調査する 4 品目を含む。）を指数品目として採用しています。この品目の中には、食パンや生鮮野菜などを始めとした食料品、衣料品、エアコン・テレビ・パソコンのような家電製品などの財のほか、家賃、診療代、外食、授業料、クリーニング代、映画観覧料、携帯電話通信料などのサービスも含まれています。

指数品目の内訳については、付録 1「指数品目及びウエイト一覧（全国）」（41 ページ）を参照してください。

基準時より後に急速に普及し、家計の上で重要となった商品を
指数品目に追加できるようにしています。

消費者物価指数は、固定した買物かごの内容の購入費用を比較していますが、最近の情報通信技術などの発達から生まれる商品は、数年で急速に普及し、家計の上で重要になる可能性があります。そこで、基準時より後に急速に普及し、消費支出に一定の割合を占めるに至った新たな商品（財やサービス）が現れた場合には、その商品の価格変動を迅速に消費者物価指数に取り入れるようにするため、次の基準改定を待たずに指数品目の見直しを行えるようにしています。

2 消費者物価指数の作り方

NOTE

585 品目で消費者物価指数が作成できるワケ

2015 年基準の消費者物価指数では、指数に採用する品目は合計で 585 品目ですが、この数で十分なのか、もっと多く採用したらよいのではないかという疑問が生じるかもしれません。

しかし、さらに指数品目を増やしても、重要度の低い、つまり指数の計算上ウエイトの小さな品目が増えるだけです。総合指数にはほとんど影響が出てきません。

例えば、家計の消費支出全体の中から支出額の高い品目順に並べてみると、上位 300 品目で全体の支出額の約 90%を占めています。

(4) ウェイト

個々の商品の値動きを総合するときには、家計の消費支出額に占めるその商品の割合に応じて、重み（ウェイト）を付けます。

消費者物価指数は、家計上重要な商品の一つの買物かごに入れて、その買物かご全体の費用が物価の変化によって、幾らに変わったかを測定するものである、と前に説明しました。これは、見方を変えれば、買物かごの中に入れたいろいろな商品の値動きを、家計の消費支出全体に占めるそれぞれの支出額の割合（重み：ウェイト）を加味して総合し、全体の物価の変化を測ることと同じになります。

2 消費者物価指数の作り方

このウエイトを加味するというこの意味を、簡単な例で説明しましょう。例えば、米、牛肉及びカレールウの3品目によって物価指数を作成するとします。今月の価格が基準時に比べて、米が20%値下がりして、基準時の100に対して80に、一方、牛肉は20%値上がりして120に、カレールウも15%値上がりして115になったとします。これを単純に平均すると、

$$\frac{80 + 120 + 115}{3} = 105$$

となり、基準時の100に対して5%上昇したと計算されます。しかし、家計の消費支出上、この3品目に対する重要度は必ずしも同じではありません。この3品目の支出額の割合が、米6、牛肉3、カレールウ1であったとします。そこでこれらの値段の動きを、ウエイトを加味して計算すると、

$$\frac{80 \times 6 + 120 \times 3 + 115 \times 1}{6 + 3 + 1} = 95.5$$

となります。単純に計算した場合に比べてウエイトの大きさが反映され、4.5%の下落になりました。各品目の全体に占める支出額の割合を加味する、つまり、ウエイトを付けて平均する計算方法を「加重平均」といいます。

2 消費者物価指数の作り方

ウエイトは、
家計調査結果による品目ごとの支出額から計算されます。

消費者物価指数では、このウエイトを、家計調査の結果を基にして次のように計算しています。

まず、2015 年 1 年間の消費支出額から、世帯で購入した個々の品目ごとに、幾ら支出したかを調べます。次に、消費支出額全体に対してどのくらいの割合を占めているかを計算し、これを個々の品目のウエイトとしています。このように計算した品目別のウエイトを、付録 1「指数品目及びウエイト一覧（全国）」（41 ページ）に掲載しています。掲載しているウエイトは、消費支出額全体を 10,000 としており、例えば、うるち米は 59、食パンは 30、牛乳（店頭売り）は 39、鶏卵は 25、みそは 8、電気代は 356、通信料（固定電話）は 81、通信料（携帯電話）は 230 などとなっています。

なお、各品目のウエイトは、家計全体の消費支出額を漏れなく捉えるため、2－（3）の「指数品目」（10 ページ参照）のところで説明したように、例えば、台所用洗剤のウエイトは、台所用洗剤だけでなく、風呂用、トイレ用なども含めた台所・住居用洗剤全体に対する支出額を割り当てています。このように各指数品目のウエイトは、同種類の商品を代表するウエイトとなっています。

また、各指数品目のウエイトは、年間の各月を通じて同じウエイトを用いています。ただし、生鮮魚介や生鮮野菜、生鮮果物のように季節によって出回り状況の著しく異なる商品については、世帯における月々の支出額が大きく変化するので、月によって異なったウエイトを用いています。このため、これらの生鮮食品については、月別の安定したウエイトを得るために、2014 年と 2015 年の月別購入数量を基にして、月ごとに異なるウエイトを作っています。

2 消費者物価指数の作り方

(5) 価格調査

指数品目は調査する銘柄を定めて、毎月同じ銘柄のものを調査します。

指数品目として選んだそれぞれの品目について、毎月同等の商品の価格を調査できるように、調査する商品の機能、規格、容量などの特性を規定しています。このような規定を銘柄と呼んでいます。銘柄をきちんと定めないと調査すると、商品の値動きが本当にあったために価格が変わったのか、それとも調査する商品の種類や機能などが先月と今月で異なったために価格が変わったのかが分からなくなるからです。そこで、それぞれの指数品目について調査する銘柄を定めて、毎月同じ銘柄のものを継続的に調査することになっています。

調査銘柄は指数品目の価格変動を代表するものです。したがって、その選定に当たっては、市場に出回っている多くの商品の状況を調べたり、業界の資料などを参考にしたり、専門家の意見を聴いたりして、全国の消費者が最も多く購入しているとみられる商標や商品の特性を規定し、これを基本銘柄として調査しています。例えば、チョコレートは

“板チョコレート、50g、「明治ミルクチョコレート」、
「ロッテガーナミルクチョコレート」又は「森永ミルクチョコレート」”

ノートブックは

“事務・学用など、普通ノート、
〔サイズ〕6号(179×252mm)、罫入り、中身枚数30枚”

というように、基本銘柄を定めています（2016年8月現在）。

2 消費者物価指数の作り方

地域によっては、基本銘柄の出回りが少なかったり、基本銘柄が地域の価格の動きを代表するのに不適切であったりする場合があります。このような場合には、機能、規格、容量などが基本銘柄に最も近く、かつ、その地域において価格の代表性があり、継続的に調査できる銘柄を調査銘柄として設定し、調査することになります。

**消費者物価指数は、小売物価統計調査で調査している
小売店などでの実売価格（小売価格）から作成されます。**

商品の価格は、それぞれ流通の段階によって違います。野菜や果物ならば、農家が自分の家で直接消費者に販売するときの価格もあれば、中央卸売市場での仲買人のせり値もあり、青果店の小売値もあります。エアコンや冷蔵庫などの家電製品も、メーカーで製造されてから、それぞれの販売会社を経るなどして小売店に流れ、流通段階ごとに違った価格で取引されています。このような色々な流通段階の価格のうち、消費者物価指数では、実際に小売店などが消費者に販売又は提供している価格を採用しています。この価格は、家計調査と同様に国の重要な統計調査の一つ、小売物価統計調査によって調査しています。

小売物価統計調査は、全国の市町村から 167 市町村を選び、さらに商業集積地区の分布状況を参考に調査地区を設定し、その中で品目ごとに販売量の多い代表的な小売店を調査店舗としています。調査店舗の数は全国で約 2 万 7 千店、調査する価格の数は毎月約 24 万にのぼります。また、小売店のほかに民営借家の家賃を調べるために、全国で約 2 万 8 千世帯を選んでいきます。

価格調査は毎月、その月の 12 日を含む週の水曜日、木曜日又は金曜日のいずれか 1 日に行われます。ただし、魚介、野菜、果物の生鮮食品及び切り花のうち、日

2 消費者物価指数の作り方

ごとの価格の変化が大きい品目については、その月の価格を正確に把握するために、毎月5日、12日、22日を含む各週の水曜日、木曜日又は金曜日のいずれか1日に行われます。

調査する価格は、希望小売価格や正札の価格ではなく、その店で実際に販売している消費税込み小売価格です。また、一時的な（7日以内の）特売価格や、ごく限られた会員向けの特別価格などは調べません。

常に商品の市場における出回り状況などを把握し、
必要に応じて調査銘柄の変更を行っています。

調査銘柄を長期間固定しておく、商品の出回りが変化し、価格変動を代表しなくなるおそれがあります。このため、定期的に商品の市場における出回り状況を調べたり、メーカーや業界などにおける製品の製造や出荷状況に関する情報を把握したりして、現行の調査銘柄が品目の価格変動を代表するものであるかどうか常に確認しています。その結果、必要に応じて調査銘柄を変更します。例えば、調査銘柄が製造中止になって後継の新製品が発売されるなど、出回りが急速に変化する場合は、調査銘柄の変更を行い、新製品を迅速に取り入れるようにしています。

調査銘柄に変更があった場合、必要に応じて品質調整を行います。

消費者物価指数は純粋な価格の変化を捉えることを目的としていますので、調査銘柄を変更する場合には、新・旧の銘柄の間にある機能・特性などの品質やパッケージ容量の違いによって生じる価格の変化分を調整する必要があります。旧銘柄と新

2 消費者物価指数の作り方

銘柄の品質の違いを定量的に評価し、消費者物価指数に反映させることを品質調整と呼んでいます。品質調整には様々な方法がありますが、新・旧の銘柄の品質差の有無やその態様、市場の価格形成の状況などを踏まえ、それぞれの事例において、最も適切な方法を選択します。

品質調整の一例として、ここでは「容量比による換算」について説明します。前月まで 400mL 入り 300 円で売られていたボディソープが、製品のリニューアルにより、品質はそのままで容量だけが減り、当月から 380mL 入り 290 円となった場合を考えましょう。純粋な価格の変化のみを捉えるためには容量の変化分を調整する必要があります。そこで、新製品の価格を容量比で換算することにより、旧製品の価格との比較を行います。

調整後の新製品の価格

$$\begin{aligned} &= \text{新製品の価格} \times \frac{\text{旧製品の容量}}{\text{新製品の容量}} \\ &= 290 \text{ 円} \times \frac{400 \text{ mL}}{380 \text{ mL}} = 305.3 \text{ 円} \end{aligned}$$

この式から、新製品は、旧製品と同じ容量である 400mL に換算すると 305.3 円であり、前月から実質的に値上げしていることが分かります。消費者物価指数の計算には、この調整後の価格が用いられます。

なお、一部の食料品などでは、価格の調査単位を重量（容量）などとしています。このような品目では、1 kg や 1,000mL といった単位重量（容量）当たりの価格から指数が作成されるため、重量（容量）の変更による実質的な価格の変更は、随時、指数の変動にも反映されます。

2 消費者物価指数の作り方

(6) 指数の計算

消費者物価指数は、
ラスパイレス式という計算式によって作成されています。

これまでは、消費者物価指数の基本的な事柄、すなわち基準時、指数に採用する品目、各品目のウェイト、調査する価格について順を追って説明してきました。次に、これらを使って、どのように消費者物価指数を計算するかについて簡単にまとめてみましょう。

消費者物価指数の計算は、買い物かごの中身を固定し、基準時と同じものを同じ量だけ購入した際にかかる費用を比較することだと説明しました。この考え方はラスパイレス式という計算式によって、次のように表されます。

$$\begin{aligned} & \frac{(p_{t,1}q_{0,1}) + (p_{t,2}q_{0,2}) + \cdots + (p_{t,n}q_{0,n})}{(p_{0,1}q_{0,1}) + (p_{0,2}q_{0,2}) + \cdots + (p_{0,n}q_{0,n})} \times 100 \\ &= \frac{\sum (p_{t,i}q_{0,i})}{\sum (p_{0,i}q_{0,i})} \times 100 \end{aligned}$$

一見すると難しそうに見えるこのラスパイレス式ですが、意味を理解すれば難しいものではありません。 p は指数品目（調査銘柄）の価格、 q はその購入数量を示し、添字の 0 は基準時、 t は比較時を、1、2、3、 $\cdots$ 、 i 、 $\cdots$ 、 n は個々の品目を示します。 Σ （シグマと読みます。）は全ての品目について合計することを意味します。

上の算式の $p_{0,i}q_{0,i}$ はある指数品目 i の基準時の価格とその購入数量を掛け合わせたものですから、その品目の基準時における支出額となり、それを合計した

2 消費者物価指数の作り方

$\Sigma(p_{0,i}q_{0,i})$ は、基準時に購入した全ての品目の合計支出額を意味します。つまり、ラスパイレ式式の分母の $\Sigma(p_{0,i}q_{0,i})$ は、基準時における買物かごの中身全体の購入費用を表しています。

一方、比較時にこれと同じ買物をした場合の費用が、分子の $\Sigma(p_{t,i}q_{0,i})$ で示されています。この分子は、基準時の買物かごに入った個々の品目の数量が $q_{0,i}$ で示され、それを比較時の価格 $p_{t,i}$ で買った場合の合計支出額となっています。この分子 $\Sigma(p_{t,i}q_{0,i})$ を分母 $\Sigma(p_{0,i}q_{0,i})$ で割って 100 倍した値が、ラスパイレ式による消費者物価指数となります。

簡単な例として、米、牛肉、カレールウの 3 品目で指数の計算方法を見てみましょう（表 1 参照）。

表 1 消費者物価指数の計算例

品目	基準時 購入量 q_0	単位	基準時 価格 p_0	比較時 価格 p_t	基準時 支出額 p_0q_0 ($= W_{0,i}$)	比較時 支出額 p_tq_0	価格比 p_t/p_0
米	20kg	(1 kg 当たり)	円 500	円 400	円 10,000	円 8,000	0.80
牛肉	2,000g	(100g 当たり)	400	400	8,000	8,000	1.00
カレールウ	2 箱	(1 箱当たり)	250	300	500	600	1.20
計	—	—	—	—	18,500	16,600	—

基準時の買物かごには米 20 kg、牛肉 2,000g、カレールウ 2 箱が入っています。

2 消費者物価指数の作り方

買物かご全体の費用は、

$$\begin{aligned}\sum(p_{0,i}q_{0,i}) &= 500 \text{ 円} \times 20 + 400 \text{ 円} \times 20 + 250 \text{ 円} \times 2 \\ &= 18,500 \text{ 円}\end{aligned}$$

と計算されます。

一方、比較時にはそれぞれの品目の価格が変わったため、基準時と同じ数量を買うと、

$$\begin{aligned}\sum(p_{t,i}q_{t,i}) &= 400 \text{ 円} \times 20 + 400 \text{ 円} \times 20 + 300 \text{ 円} \times 2 \\ &= 16,600 \text{ 円}\end{aligned}$$

となります。基準時と比較時の費用を比較すると、

$$\begin{aligned}\frac{\sum(p_{t,i}q_{0,i})}{\sum(p_{0,i}q_{0,i})} &= \frac{400 \text{ 円} \times 20 + 400 \text{ 円} \times 20 + 300 \text{ 円} \times 2}{500 \text{ 円} \times 20 + 400 \text{ 円} \times 20 + 250 \text{ 円} \times 2} \\ &= \frac{16,600 \text{ 円}}{18,500 \text{ 円}} = 0.897\end{aligned}$$

であり、これを 100 倍した値が消費者物価指数となります。この例では、基準時を 100 として、比較時の消費者物価指数は 89.7 とラスパイレズ式から計算されます。

2 消費者物価指数の作り方

実際の計算には、

基準時加重相対法算式（ラスパイレズ型）を用います。

ところで、結果は同じになりますが、ここでもう一つ別な計算式を示しましょう。

これは基準時加重相対法算式（ラスパイレズ型）と呼ばれるもので、

$$\frac{\sum \left(\frac{p_{t,i}}{p_{0,i}} W_{0,i} \right)}{\sum W_{0,i}} \times 100$$

と表されます。新しい記号の $W_{0,i}$ は、ある品目 i の基準時のウェイト（基準時の支出額）を示します。米の基準時の支出額は表 1 の例では 10,000 円で、それは基準時の価格 500 円（ p_0 ）に数量 20 kg（ q_0 ）を乗じたもので、ウェイトは 10,000（ $p_0 q_0 = W_0$ ）と表します。

次に、表 1 の一番右端の列にあるように米、牛肉、カレールウについて、基準時に対する比較時の価格比（ p_t/p_0 ）を計算します。この例では、基準時から比較時までの間に、米は 0.80 倍、牛肉は 1.00 倍、カレールウは 1.20 倍に価格が変化しています。この価格比にそれぞれのウェイトを乗じて、次のように加重平均すると、計算の結果はラスパイレズ式の場合と同じ 89.7 になります。

$$\begin{aligned} & \frac{\sum \left(\frac{p_{t,i}}{p_{0,i}} W_{0,i} \right)}{\sum W_{0,i}} \times 100 \\ &= \frac{0.80 \times 10,000 + 1.00 \times 8,000 + 1.20 \times 500}{10,000 + 8,000 + 500} \times 100 \\ &= 89.7 \end{aligned}$$

2 消費者物価指数の作り方

なお、消費者物価指数では品目別のウエイトを、通常、一万分比で表します。「一万分比ウエイト」は、基準時における総消費支出額（この例では 18,500 円）を 10,000 として、各品目の支出額を比例換算した値です。

NOTE

ラスパイレ式と基準時加重相対法算式（ラスパイレ型）

ラスパイレ式は、次のように変形することができ、基準時加重相対法算式（ラスパイレ型）と同じものになります。

$$\frac{\sum (p_{t,i} q_{0,i})}{\sum (p_{0,i} q_{0,i})} = \frac{\sum \left(\frac{p_{t,i}}{p_{0,i}} p_{0,i} q_{0,i} \right)}{\sum (p_{0,i} q_{0,i})} = \frac{\sum \left(\frac{p_{t,i}}{p_{0,i}} W_{0,i} \right)}{\sum W_{0,i}}$$

実際に消費者物価指数の作成に用いられているのはラスパイレ式ではなく、基準時加重相対法算式（ラスパイレ型）です。

その理由としては、指数品目のうち、例えば医療費や交通費などは、支出額は比較的簡単に調べられても、統一的な単位で数量を調べるのが難しいことなどが挙げられます。また、ウエイトのところで説明したように、指数品目以外の支出額については、全体の家計支出を代表するように、類似する指数品目に組み入れてウエイトを作成しています。しかし、このようなウエイトの配分が数量によってはできないことも、この式を用いる理由の一つです。

2 消費者物価指数の作り方

(7) 指数の公表

消費者物価指数は、原則として

毎月 19 日を含む週の金曜日の午前 8 時 30 分に公表しています。

消費者物価指数の結果は、全国の前月分指数が、原則として毎月 19 日^{注)}を含む週の金曜日午前 8 時 30 分に公表され、同日の閣議に報告されます。また、東京都区部の当月分指数（中旬速報値）が、原則として毎月 26 日を含む週の金曜日午前 8 時 30 分に公表されます。

公表内容は、インターネットの総務省統計局ホームページで入手できるほか、総務省統計局にある統計図書館などで閲覧できます。また、年間の公表結果をまとめたものとして「消費者物価指数年報」を刊行しています。

詳細については、付録 4 「消費者物価指数の閲覧及び入手先」（58 ページ）を参照してください。

注) 2018 年 1 月分以降の全国結果の公表を、26 日を含む週の金曜日の午前 8 時 30 分から 1 週間早期化しました。



3 消費者物価指数の見方

(1) 物価の動きを分析するために

総合指数は消費者物価の水準を示す最も重要な指標ですが、その動きを細かく分析するためには、基本分類指数の動きも見ます。

単に「消費者物価指数」と言ったとき、一般には総合指数を指します。総合指数は、消費者物価指数で扱う全ての指数品目の値動きを反映したものであり、消費者物価の水準を示す上で最も重要な指標だからです。

一方で消費者物価の変動、すなわち総合指数の動きを細かく分析する際には、食料、住居、光熱・水道といったそれぞれの分類に分けた価格の変動を捉える必要があります。そこで、総合指数の内訳を消費の目的により費目別に分類した「基本分類指数」も併せて作成・公表しています。この分類の詳細については、付録2「基本分類の構成品目」（47 ページ）を参照してください。

また、「生鮮食品」は、天候の影響を強く受け、毎月の変動幅が大きくなる傾向があります。そのため、「総合」の足元の（短期的な）変動には、「生鮮食品」に由来する天候の影響が含まれます。そこで、消費者物価指数では、「総合」から「生鮮食品」を除いた「生鮮食品を除く総合」も併せて作成・公表しています。「生鮮

3 消費者物価指数の見方

食品を除く総合」は 1962 年に作成・公表を開始し、物価の基調を見るための一つの指標として用いられています。

同様に「生鮮食品及びエネルギーを除く総合」は、「総合」から「生鮮食品」に加え、海外要因で変動する原油価格の影響を直接受けるガソリンや電気代などの「エネルギー」も除いた基調を見るために用いられます。

(2) 変化率

前月又は前年同月からの物価の動きは変化率で表します。

前月から、又は前年同月からの物価の変化を見る場合、二時点の指数を単純に引き算するのではなく、変化率を用いて何パーセントの上昇(又は下落)と表します。ある時点の指数を A、それより前の時点の指数を B とすると、これら二時点間の変化率は次のように計算します。

$$\begin{aligned}\text{変化率 (\%)} &= \frac{A - B}{B} \times 100 \\ &= \left(\frac{A}{B} - 1 \right) \times 100\end{aligned}$$

このように、ある時点から次の時点までに指数が何パーセント変化したかという場合には、この二つの指数の差を前の時点の指数で割り、百分比で示します。

例えば、2016 年 1 月の全国の消費者物価指数について、2015 年 1 月からの 1 年間の物価の動きを見てみましょう。2015 年の年平均を 100 とした 2016 年 1 月の指数は 99.5 で、前年(2015 年) 1 月の指数は 99.6 でしたので、その差は-0.1 とな

3 消費者物価指数の見方

ります。これを 99.6（2015 年 1 月の指数）で割って 100 倍し、0.1% の下落ということになります。

$$\frac{99.5 - 99.6}{99.6} \times 100 = -0.1\%$$

次に、それぞれの変化率の見方について紹介しましょう。

前月比は、当月の指数を前月の指数と比べた変化率で、足元の物価変動を表します。ただし前月比については、衣料品や生鮮果物など商品の出回りの変化による季節的な変動も含まれている点に注意する必要があります。

$$\text{前月比 (\%)} = \frac{\text{当月の指数} - \text{前月の指数}}{\text{前月の指数}} \times 100$$

これに対し、前年同月比は、当月の指数を 1 年前の同じ月の指数と比べた変化率です。同じ月同士の比較ですので、季節的な変動要因を考慮する必要がなく、当月までの 1 年間の物価の動きを見るのに便利です。

$$\text{前年同月比 (\%)} = \frac{\text{当月の指数} - \text{前年の同じ月の指数}}{\text{前年の同じ月の指数}} \times 100$$

また、前年比は、当年の年平均指数（1 月から 12 月の平均）を前年の年平均指数と比べた変化率で、1 年間の物価の動きを見る重要な経済指標となっています。

$$\text{前年比 (\%)} = \frac{\text{当年の年平均指数} - \text{前年の年平均指数}}{\text{前年の年平均指数}} \times 100$$

なお、前年度比は、年度平均指数（当年 4 月から翌年 3 月の平均）を用いて、前年比と同様に計算します。

(3) 物価の変動要因

物価全体の動きに対して、
各内訳項目がどれだけ影響したかを見るには、寄与度を用います。

全国の消費者物価指数は、総合で 2015 年 1 月から 2016 年 1 月までの 1 年間に 0.1% 下落しました。この変化率は消費者物価全体の動きを示した数字ですので、どのような要因で 0.1% 下落したのか分かりません。そこで、どのような項目の物価がどのくらい動いたのかを見る必要があります。

まず、食料、住居、光熱・水道など、10 大費目別に動きを見てみましょう（表 2）。食料、家具・家事用品、被服及び履物、保健医療、教養娯楽などは上昇していますが、光熱・水道、交通・通信などは下落しています。なお、項目ごとにウエイトが異なるので、同じ下落幅でも家計への影響は様々ではないことに注意する必要があります。

各項目のウエイトを加味して、各項目の動きが物価全体（総合指数）の動きに対してどの程度影響しているか示す寄与度は、次の算式で計算します。

項目 A の寄与度

$$= \frac{\left(\left(\frac{\text{当期の}}{\text{項目 A の指数}} \right) - \left(\frac{\text{前期の}}{\text{項目 A の指数}} \right) \right) \times \frac{\text{項目 A のウエイト}}{\text{総合のウエイト}}}{\text{前期の総合指数}} \times 100$$

例えば、表 2 の光熱・水道について計算してみると、次のようになります。

3 消費者物価指数の見方

$$\text{光熱・水道の寄与度} = \frac{(95.7 - 102.5) \times \frac{745}{10,000}}{99.6} \times 100 = -0.51$$

光熱・水道の寄与度-0.51 は、他の項目は変化せず光熱・水道だけが 6.7%下落したと仮定した場合の総合指数の変化率に当たります。

なお、各項目の寄与度を合計すると、総合指数の変化率になります。

表2 10 大費目別の前年同月比と寄与度

	ウェイト	2015年1月 指数	2016年1月 指数	2016年1月 前年同月比 (%)	寄与度
総合	10,000	99.6	99.5	-0.1	
食料	2,623	99.4	100.9	1.5	0.41
住居	2,087	100.0	99.9	0.0	-0.01
光熱・水道	745	102.5	95.7	-6.7	-0.51
家具・家事用品	348	99.4	100.2	0.8	0.03
被服及び履物	412	96.3	97.7	1.5	0.06
保健医療	430	99.4	100.3	0.8	0.04
交通・通信	1,476	100.0	98.1	-1.9	-0.28
教育	316	98.9	100.4	1.5	0.05
教養娯楽	989	98.2	99.3	1.1	0.11
諸雑費	574	99.6	100.3	0.7	0.04

注) 前年同月比を始めとする変化率及び寄与度は端数処理前の指数から計算しているため、公表値を用いて計算した値とは一致しない場合があります。また、四捨五入の関係で、各費目の寄与度の合計が総合の前年同月比に一致しない場合があります。

3 消費者物価指数の見方

前月比や前年同月比の変動が、
どの項目に起因するかを見るには、寄与度差を用います。

寄与度差とは、その名のとおり、当期と前期の寄与度の差であり、総合指数の前期比の変動（上昇幅の拡大・縮小等）がどの項目の動きによるものかを分析する際に役立ちます。

$$\text{寄与度差} = \text{当月の寄与度} - \text{前月の寄与度}$$

例えば、2016 年 1 月の総合指数の前年同月比は 0.1% の下落、その翌月 2 月の前年同月比は 0.2% の上昇であり、前年同月比は 0.3 ポイント上方に伸びています。この 0.3 ポイントの伸びを、項目別の内訳で見たものが、寄与度差に相当します。表 3 は 2016 年 2 月における各項目の寄与度差をまとめたものです。食料の寄与度差 0.26 は、食料により総合の上昇幅が 0.26 ポイント拡大したことを表します。つまり、前年同月比の伸び（0.3 ポイント）の大部分が食料によることが分かります。

商品の特質などによって区分している財・サービス分類別の指数も参照すると、変動要因の分析に役立ちます。

消費者物価指数では財・サービス分類指数も作成しています。この財・サービス分類は、指数品目をその特性により、①財であるかサービスであるか、②どのような産業で製造又は提供されているか、③財の場合は耐久性の度合いなどにより分類したものです。具体的には、財の場合、農水畜産物、食料工業製品、繊維製品、石油製品などに分類されています。例えば、原油価格が上昇したり、為替相場が円安になったりすると、石油製品などの指数が上昇する傾向にあります。この分類の詳細については、付録 3 「財・サービス分類の構成品目」（54 ページ）を参照してください。

3 消費者物価指数の見方

表3 10大費目別の寄与度と寄与度差

	2016年1月	2016年2月	
(前年同月比)			
総合	-0.1	0.2	
(前年同月比寄与度)			(寄与度差)
食料	0.41	0.66	0.26
住居	-0.01	-0.01	0.00
光熱・水道	-0.51	-0.56	-0.05
家具・家事用品	0.03	0.01	-0.02
被服及び履物	0.06	0.09	0.03
保健医療	0.04	0.03	0.00
交通・通信	-0.28	-0.25	0.04
教育	0.05	0.06	0.01
教養娯楽	0.11	0.13	0.02
諸雑費	0.04	0.04	0.00

注) 寄与度差は端数処理前の寄与度から計算しているため、公表値を用いて計算した値とは一致しない場合があります。

(4) 指数と実感

人々の生活実感は、
毎日買うものなどの値動きに引きずられがちです。

前に説明しましたように、消費者物価指数は、世帯で購入する代表的な商品（財やサービス）を選んで、それらの価格の動きを総合した指数です。この品目の中には、値動きが大きいものや、ほとんど値動きのないものなどがあります。消費者物価指数は、指定した全品目の価格の動きを客観的に調べて、それぞれにウエイトを付けて計算されます。これに対して、人々の生活実感は、毎日買うものの値動きなどにどうしても引きずられてしまいがちです。

指数品目を必需品か否かに区分したものや、
購入頻度別に区分した指数なども作成しています。

総務省では、指数品目を必需品か否かに着目して分類した基礎的・選択的支出項目別指数を作成しています。消費者が購入する商品（財やサービス）には、米や野菜、家賃、電気代などのように必需性の高い品目と、ワインや外国パック旅行費などに代表されるような、どちらかといえば世帯の嗜好などにより選択的に購入されるとみられる品目があり、前者を基礎的支出項目、後者を選択的支出項目と呼んでいます。基礎的支出項目の物価上昇が大きい場合には、一般に物価上昇感が高まると考えられます。各指数品目が基礎的か選択的かの区分は、家計調査結果から得られる品目別の支出弾力性に基づいて行っています。

また、消費者が購入する商品（財やサービス）には、パンや牛乳などのように頻

3 消費者物価指数の見方

繁に買う品目もあれば、かぜ薬やタオルなどのように年に数回しか購入しない品目もあります。基礎的支出と同様に、購入頻度の高い品目の物価上昇が大きい場合には、一般に物価上昇感が高まると考えられます。そこで、指数品目を家計調査結果から得られる年間購入頻度（購入回数）に基づいて区分した指数も、併せて作成しています。

消費者物価指数は、
消費者全体に対する物価の動きの平均を表すものです。

消費者物価指数の動きは何を表しているのでしょうか。家計で購入する商品（財やサービス）とその購入数量は世帯によって違います。例えば、私立大学の授業料の変化は、私立大学に通う子供のいる世帯でないと家計に直接は影響しません。消費者物価指数が上がった、下がったといっても、物価の動きがそれぞれの家計に影響する度合いは異なっています。消費者物価指数は、このような個々の家計に対応する物価の動きを表すのではなく、消費者全体に対する物価の動きを表す指標です。

世帯の収入や世帯主の年齢など世帯属性別の指数も作成しています。

消費者物価指数は消費者全体、すなわち、平均的な消費構造を持つ世帯に対する物価の動きを表すものであることは既に説明したとおりです。実際には、世帯の収入や世帯主の年齢などによって世帯の消費構造が異なり、物価変動の影響もこれらの世帯属性により異なることが考えられます。そこで、総務省では世帯属性別の指数も作成しています。世帯属性別指数のウエイトには、家計調査の結果のうち世帯属性別の品目別支出額から計算したものをを用い、品目別価格指数には全国の指数を共通に用いています。

3 消費者物価指数の見方

物価の動きと生活費の動きは必ずしも一致しません。

去年の家計簿と今年の家計簿を比べて、去年は生活費が1か月 30 万円であったのに、今年は 31 万 5 千円、つまり 5 % 多く掛かったとします。このようなとき、生活費がかさんだのは物価が 5 % 上がったからだと考えがちです。

生活費は物価が上がればもちろん増えますが、仮に物価が上がらなくても前より購入量が増えたり、高級な商品を買うようになったりしても増えます。これは生活水準の向上であって、物価の上昇と区別して考える必要があります。生活費が 5 % 増加した場合、もしこの間に物価が 1 % 上昇したとするなら、生活費の増加 5 % のうち 1 % は物価の影響ですが、残り 4 % (正確には 105 を 101 で割って 3.96%) は生活水準が向上した影響ということになります。

同一品質の商品の価格と平均的な購入価格の変化には、違いがあります。

例えば、一口に冷蔵庫といっても、容量の大小や、冷凍室や野菜室の有無、種々の特殊機能の有無、あるいはメーカーのブランド等によっても、価格は大きく異なります。消費者はこの中から、自らの経済状態やニーズに応じて、購入する商品を選択し、購入しています。家計調査では、消費者が購入している家電製品や食品の平均購入価格が分かりますが、この平均購入価格は、個々の商品の品質（機能や特性）を考慮せずに、各品目の購入価格を平均したものです。これに対し消費者物価指数は、純粋な価格の変化を測定することを目的としていることから、同じ品質の商品の価格変化を追跡するとともに、出回りの変化に対応して調査対象を入れ替える場合には、新旧商品の品質の違いによる価格の変化分を除外しています。つまり、

3 消費者物価指数の見方

調査対象の品質が向上した分による価格の上昇分は、消費者物価指数に反映されません。

一般的に、技術革新により機能の向上が著しい冷蔵庫やパソコンといった家電製品などでは、平均購入価格より消費者物価指数の下落幅が大きくなる傾向が見られます。また、衣料に見られるように、好況時には高級志向が強まり、不況時には低価格志向が強まる品目は、平均購入価格の方が消費者物価指数に比べて変動幅が大きくなる傾向があります。

3 消費者物価指数の見方

(5) 長期時系列での比較

消費者物価指数は古くは 1946 年 8 月から作成されており、消費者物価の水準を長期にわたって比較することが可能です。

消費者物価指数は、基準となる時点（現在は 2015 年）の消費者物価の水準を 100 として、物価の動きを客観的かつ時系列的に表したものです。これが意味するところを改めて考えてみましょう。

2015 年を 100 として、1970 年の総合指数は 31.5 です。1970 年から 2015 年までの間に消費者物価の水準は、約 3 倍になっています。つまり、1970 年当時、100 万円で購入されていたものを 2015 年に購入しようとすれば、約 300 万円掛かるということになります。

このように、消費者物価指数はある時点間の消費者物価の水準を比較する際に用いられます。消費者物価指数の計算は 1946 年 8 月に開始されており、長期にわたっての物価水準の動きを追うことができます^{注)}。

その一方、消費者物価指数を用いて貨幣価値の比較ができないか、という声も聞かれます。しかしながら、消費者物価指数から貨幣価値を論じる際には注意が必要です。消費者物価指数はあくまで世帯が購入する財やサービスに限って物価の水準を示したものであり、貨幣の価値をそのまま表すとは言えないからです。「何をもって貨幣の価値とするか」には様々な考え方があるため、消費者物価指数による比較は、貨幣価値を考える際の一つの参考として扱っていただければと思います。

注) 2015 年基準の消費者物価指数では、「持家の帰属家賃を除く総合」指数を 1946 年 8 月分から、「総合」指数を 1970 年 1 月分から提供しています。そのほか、戦前からの物価の動きを知るため、1934 年から 1936 年の 3 年間の平均を 1 とした、戦前を基準時とする換算指数も作成しています。

付録1 指数品目及びウエイト一覧（全国）

含類 総連番	名称	ウエイト (一万分比)
001	総合	10000
002	食料	2623
003	穀類	208
004	米類	62
005	うるち米	59
006	うるち米A	25
007	うるち米B	34
008	もち米	3
009	パン	84
010	食パン	30
011	あんパン	30
012	ガレーパン	24
013	麺類	48
014	ゆでうどん	10
015	干しうどん	7
016	スパゲッティ	3
017	カップ麺	16
018	中華麺	11
019	*ゆで沖縄そば	1
020	他の穀類	15
021	小麦粉	4
022	もち	11
023	魚介類	218
024	生鮮魚介	125
025	まぐろ	23
026	あじ	6
027	いわし	3
028	かつお	7
029	さけ	19
030	さば	5
031	さんま	5
032	たい	5
033	ぶり	14
034	いか	9
035	たこ	5
036	えび	13
037	あさり	4
038	かき（貝）	3
039	ほたて貝	3
040	塩干魚介	40
041	塩さけ	11
042	たらこ	11
043	しらす干し	7
044	干しあじ	4
045	煮干し	2
046	ししゃも	2
047	いくら	4
048	魚肉練製品	24
049	揚げかまぼこ	8
050	ちくわ	6
051	かまぼこ	10
052	他の魚介加工品	29
053	かつお節	3
054	魚介漬物	11
055	魚介つくだ煮	4
056	魚介缶詰	9
057	塩辛	2

含類 総連番	名称	ウエイト (一万分比)
058	肉類	240
059	生鮮肉	190
060	牛肉（国産品）	43
061	牛肉（輸入品）	18
062	豚肉A	43
063	豚肉B	43
064	鶏肉	43
065	加工肉	49
066	ハム	18
067	ソーセージ	23
068	ベーコン	8
069	*ボーク缶詰	1
070	乳卵類	118
071	牛乳・乳製品	93
072	牛乳	41
073	牛乳（配達）	2
074	牛乳（店頭売り）	39
075	乳製品	51
076	粉ミルク	2
077	ヨーグルト	33
078	バター	3
079	チーズ（国産品）	8
080	チーズ（輸入品）	5
081	卵	25
082	鶏卵	25
083	野菜・海藻	289
084	生鮮野菜	193
085	キャベツ	11
086	ほうれんそう	8
087	はくさい	5
088	ねぎ	11
089	レタス	10
090	ブロッコリー	7
091	もやし	4
092	アスパラガス	5
093	きつまいも	3
094	じゃがいも	8
095	さといも	3
096	だいこん	6
097	にんじん	7
098	ごぼう	3
099	たまねぎ	10
100	れんこん	3
101	ながいも	5
102	しょうが	2
103	えだまめ	3
104	きやいんげん	3
105	かぼちゃ	5
106	きゅうり	10
107	なす	6
108	トマト	24
109	ピーマン	6
110	生しいたけ	9
111	えのきたけ	6
112	しめじ	8
113	にがうり	1
114	*とうが	1

付録１ 指数品目及びウエイト一覧（全国）

含類 総連番	名称	ウエイト (一万分比)
115	乾物・加工品類	96
116	乾物・海藻	24
117	干ししいたけ	2
118	干しのり	10
119	わかめ	5
120	こんぶ	4
121	ひじき	3
122	大豆加工品	36
123	豆腐	16
124	油揚げ	9
125	納豆	10
126	他の野菜・海藻加工品	36
127	こんにゃく	6
128	梅干し	7
129	だいこん漬	6
130	はくさい漬	3
131	キムチ	7
132	こんぶつくだ煮	5
133	野菜缶詰	2
134	果物	104
135	生鮮果物	97
136	りんごA	2
137	りんごB	13
138	みかん	15
139	グレープフルーツ	1
140	オレンジ	2
141	しらぬひ	2
142	梨	6
143	ぶどうA	3
144	ぶどうB	5
145	柿	3
146	桃	4
147	すいか	4
148	メロン	3
149	いちご	11
150	バナナ	15
151	キウイフルーツ	5
152	さくらんぼ	3
153	果物加工品	7
154	果物缶詰	7
155	油脂・調味料	114
156	油脂	13
157	食用油	11
158	マーガリン	2
159	調味料	101
160	食塩	2
161	しょう油	7
162	みそ	8
163	砂糖	5
164	酢	3
165	ソース	3
166	ケチャップ	2
167	マヨネーズ	4
168	ドレッシング	8
169	ジャム	5
170	カレールウ	5
171	乾燥スープ	10

含類 総連番	名称	ウエイト (一万分比)
172	風味調味料	8
173	ふりかけ	6
174	たれ	5
175	つゆ	11
176	合わせ調味料	4
177	バスタソース	4
178	菓子類	233
179	ようかん	10
180	まんじゅう	17
181	だいふく餅	15
182	カステラ	5
183	ケーキ	25
184	ゼリー	11
185	プリン	8
186	シュークリーム	8
187	ロールケーキ	11
188	せんべい	21
189	ビスケット	13
190	ポテトチップス	16
191	キャンデー	8
192	チョコレート	26
193	アイスクリーム	32
194	落花生	2
195	チューインガム	3
196	調理食品	313
197	主食的調理食品	134
198	すし（弁当）A	28
199	すし（弁当）B	14
200	弁当A	23
201	弁当B	23
202	おにぎり	14
203	調理パン	16
204	冷凍調理ピラフ	6
205	調理バスタ	4
206	調理ピザパイ	4
207	他の調理食品	179
208	うなぎかば焼き	10
209	サラダ	17
210	コロッケ	14
211	豚カツ	13
212	からあげ	28
213	ぎょうざ	12
214	やきとり	8
215	冷凍調理コロッケ	13
216	冷凍調理ハンバーグ	13
217	調理カレー	5
218	混ぜごはんのもと	2
219	煮豆	3
220	焼き魚	14
221	きんぴら	14
222	焼豚	14
223	飲料	147
224	茶類	35
225	緑茶	14
226	紅茶	3
227	茶飲料	18
228	コーヒー・ココア	33

付録１ 指数品目及びウエイト一覧（全国）

含類 総連番	名称	ウエイト (一万分比)
229	インスタントコーヒー	8
230	コーヒー豆	8
231	コーヒー飲料 A	13
232	コーヒー飲料 B	3
233	他の飲料	79
234	果実ジュース	9
235	果汁入り飲料	7
236	野菜ジュース	13
237	炭酸飲料	17
238	乳酸菌飲料	13
239	ミネラルウォーター	11
240	スポーツドリンク	5
241	豆乳	4
242	酒類	119
243	清酒	18
244	焼酎	20
245	ビール	33
246	発泡酒	8
247	ウイスキー	5
248	ワイン（国産品）	3
249	ワイン（輸入品）	7
250	チューハイ	6
251	ビール風アルコール飲料	20
252	外食	521
253	一般外食	493
254	うどん（外食）	15
255	日本そば（外食）	15
256	中華そば（外食）	30
257	*沖縄そば（外食）	1
258	スパゲッティ（外食）	11
259	すし（外食） A	24
260	すし（外食） B	44
261	天丼（外食）	18
262	カレーライス（外食）	20
263	牛丼（外食）	13
264	豚カツ定食（外食）	27
265	しょうが焼き定食（外食）	28
266	フライドチキン（外食）	6
267	ぎょうざ（外食）	23
268	ハンバーグ（外食）	29
269	焼肉（外食）	57
270	ハンバーガー（外食）	15
271	サンドイッチ（外食）	15
272	ピザバイ（配達）	8
273	ドーナツ（外食）	4
274	コーヒー（外食） A	13
275	コーヒー（外食） B	6
276	ビール（外食）	55
277	やきとり（外食）	18
278	学校給食	28
279	学校給食（小学校）	19
280	学校給食（中学校）	9
281	住居	2087
282	家賃	1782
283	民営家賃	261
284	民営家賃	261
285	公営・都市再生機構・公社家賃	22

含類 総連番	名称	ウエイト (一万分比)
286	公営家賃	9
287	都市再生機構・公社家賃	13
288	持家の帰属家賃	1499
289	持家の帰属家賃	1499
290	設備修繕・維持	305
291	設備材料	82
292	システムバス	11
293	温水洗浄便座	11
294	給湯機	25
295	システムキッチン	21
296	カーポート	4
297	修繕材料	11
298	工事その他のサービス	223
299	畳替え代	4
300	水道工事費	15
301	塀工事費	40
302	外壁塗装費	40
303	植木職手間代	11
304	ふすま張替費	3
305	大工手間代	22
306	駐車場工事費	25
307	壁紙張替費	6
308	火災・地震保険料	59
309	光熱・水道	745
310	電気代	356
311	電気代	356
312	ガス代	181
313	都市ガス代	116
314	プロパンガス	65
315	他の光熱	41
316	灯油	41
317	上下水道料	167
318	水道料	94
319	下水道料	73
320	家具・家事用品	348
321	家庭用耐久財	111
322	家事用耐久財	57
323	電子レンジ	4
324	電気炊飯器	11
325	ガステーブル	3
326	電気冷蔵庫	16
327	電気掃除機	9
328	電気洗濯機（全自動洗濯機）	7
329	電気洗濯機（洗濯乾燥機）	7
330	冷暖房用器具	37
331	ルームエアコン	30
332	温風ヒーター	4
333	空気清浄機	3
334	一般家具	18
335	整理たんす	5
336	食卓セット	9
337	食器戸棚	4
338	室内装備品	25
339	室内時計	2
340	照明器具	7
341	カーベット	9
342	カーテン	7

付録１ 指数品目及びウエイト一覧（全国）

含類 総連番	名称	ウエイト (一万分比)
343	寝具類	27
344	ベッド	7
345	布団	11
346	毛布	2
347	敷布	3
348	布団カバー	3
349	家事雑貨	72
350	食器類	10
351	茶わん	4
352	皿	6
353	台所用品	25
354	台所用密閉容器	3
355	水筒	5
356	鍋	7
357	フライパン	7
358	スポンジたわし	3
359	他の家事雑貨	37
360	電球・ランプ	10
361	タオル	14
362	マット	9
363	物干し用ハンガー	3
364	家事用消耗品	86
365	ティッシュ・トイレットペーパー	21
366	ティッシュペーパー	8
367	トイレットペーパー	13
368	洗剤	28
369	台所用洗剤	11
370	洗濯用洗剤	17
371	他の家事用消耗品	38
372	ラップ	5
373	ポリ袋	8
374	殺虫剤	7
375	防虫剤	1
376	柔軟仕上げ剤	9
377	芳香・消臭剤	6
378	キッチンペーパー	2
379	家事サービス	27
380	家事代行料	4
381	家事代行料	4
382	清掃代	16
383	リサイクル料金	4
384	浄化槽清掃代	12
385	他の家事サービス	8
386	エッセンシャル料	8
387	被服及び履物	412
388	衣料	174
389	和服	6
390	婦人用着物	4
391	婦人用帯	2
392	洋服	167
393	男子用洋服	51
394	青広服（春夏物、中級品）	6
395	青広服（春夏物、普通品）	4
396	青広服（秋冬物、中級品）	6
397	青広服（秋冬物、普通品）	4
398	男子用上着	7
399	男子用ズボン（春夏物）	7

含類 総連番	名称	ウエイト (一万分比)
400	男子用ズボン（秋冬物）	6
401	男子用ズボン（ジーンズ）	2
402	男子用コート	5
403	男子用学校制服	5
404	婦人用洋服	95
405	婦人用スーツ（春夏物、中級品）	6
406	婦人用スーツ（春夏物、普通品）	3
407	婦人用スーツ（秋冬物、中級品）	4
408	婦人用スーツ（秋冬物、普通品）	3
409	ワンピース（春夏物）	7
410	ワンピース（秋冬物）	6
411	婦人用上着	11
412	スカート（春夏物）	4
413	スカート（秋冬物）	4
414	婦人用スラックス（秋冬物）	12
415	婦人用スラックス（ジーンズ）	16
416	婦人用コート	14
417	女子用学校制服	5
418	子供用洋服	21
419	男児用ズボン	7
420	女児用スカート	11
421	裸児服	3
422	シャツ・セーター・下着類	123
423	シャツ・セーター類	87
424	男子用シャツ・セーター類	26
425	ワイシャツ（長袖）	6
426	ワイシャツ（半袖）	1
427	男子用スポーツシャツ（長袖）	4
428	男子用スポーツシャツ（半袖）	9
429	男子用セーター	6
430	婦人用シャツ・セーター類	54
431	ブラウス（長袖）	4
432	ブラウス（半袖）	7
433	婦人用Tシャツ（長袖）	10
434	婦人用Tシャツ（半袖）	14
435	婦人用セーター（長袖）	15
436	婦人用セーター（半袖）	4
437	子供用シャツ・セーター類	7
438	子供用Tシャツ（長袖）	3
439	子供用Tシャツ（半袖）	3
440	下着類	36
441	男子用下着類	12
442	男子用シャツ（半袖）	5
443	男子用パンツ	5
444	男子用バジャマ	3
445	婦人用下着類	20
446	ブラジャー	3
447	婦人用ショーツ	8
448	ランジェリー	8
449	子供用下着類	4
450	子供用シャツ	4
451	履物類	58
452	男子靴	12
453	婦人靴	24
454	子供靴	3
455	運動靴	14
456	サンダル	2

付録１ 指数品目及びウエイト一覧（全国）

含類 総連番	名称		ウエイト (一万分比)
457	他の被服	スリッパ	3
458			34
459		帽子	6
460		ネクタイ	2
461		マフラー	5
462		男子用靴下	7
463		婦人用ストッキング	3
464		婦人用ソックス	9
465		ベルト	3
466		被服関連サービス	24
467		洗濯代A	9
468		洗濯代B	9
469		服物修理代	2
470		被服賃借料	4
471	保健医療		430
472	医薬品・健康保持用摂取品		121
473		総合かぜ薬	10
474		解熱鎮痛剤	4
475		胃腸薬	8
476		ビタミン剤A	3
477		ビタミン剤B	3
478		ドリンク剤	22
479		皮膚病薬	5
480		はり薬	6
481		目薬	6
482		漢方薬	7
483		鼻炎薬	7
484		健康保持用摂取品A	20
485		健康保持用摂取品B	20
486		保健医療用品・器具	72
487		紙おむつ（乳幼児用）	5
488		紙おむつ（大人用）	5
489		生理用ナプキン	8
490		入浴剤	6
491		コンタクトレンズ用剤	4
492		マスク	4
493		眼鏡	17
494		コンタクトレンズ	10
495		血圧計	5
496		補聴器	5
497		サポーター	5
498		保健医療サービス	237
499		診療代	207
500		出産入院料	2
501		マッサージ料金	10
502		人間ドック受診料	10
503		予防接種料	8
504	交通・通信		1476
505	交通		224
506		鉄道運賃（JR）	86
507		普通運賃（JR）	35
508		料金（JR，在来線）	8
509		料金（JR，新幹線）	19
510		通学定期（JR）	7
511		通勤定期（JR）	17
512		鉄道運賃（JR以外）	42
513		普通運賃（JR以外）	21

含類 総連番	名称		ウエイト (一万分比)
514		通学定期（JR以外）	5
515		通勤定期（JR以外）	16
516		一般路線バス代	17
517		高速バス代	4
518		タクシー代	18
519		航空運賃	22
520		有料道路料	35
521		高速自動車国道料金	26
522		都市高速道路料金	9
523		自動車等関係費	836
524	自動車		199
525		軽乗用車	40
526		小型乗用車A	55
527		小型乗用車B	5
528		普通乗用車A	80
529		普通乗用車B	20
530		自転車	9
531		自転車A	6
532		自転車B	3
533		自動車等維持	628
534	ガソリン		206
535		自動車タイヤ	30
536		自動車バッテリー	8
537		カーナビゲーション	21
538		自動車整備費（定期点検）	28
539		自動車整備費（パンク修理）	22
540		自動車オイル交換料	12
541		車庫借料	51
542		駐車料金	9
543		自動車免許手数料	2
544	レンタカー料金		5
545		洗車代	2
546		ロードサービス料	3
547		自動車保険料（自賠責）	41
548		自動車保険料（任意）	189
549		通信	416
550		はがき	3
551		封書	7
552		通信料（固定電話）	81
553		通信料（携帯電話）	230
554	運送料		15
555		固定電話機	2
556		携帯電話機	77
557		教育	316
558		授業料等	216
559		P T A 会費（小学校）	15
560		P T A 会費（中学校）	15
561		中学校授業料（私立）	16
562		高等学校授業料（公立）	4
563		高等学校授業料（私立）	17
564	大学授業料（国立）		10
565		大学授業料（私立）	90
566		短期大学授業料（私立）	5
567		幼稚園保育料（公立）	3
568		幼稚園保育料（私立）	27
569		専修学校授業料（私立）	14
570		教科書・学習参考教材	8

付録１ 指数品目及びウエイト一覧（全国）

含類 総連番	名称		ウエイト (一万分比)
571	補習教育	教科書	4
572		学習参考教材	4
573			93
574		補習教育（小学校）	25
575		補習教育（中学校）	40
576		補習教育（高校・予備校）	28
577	教養娯楽		989
578	教養娯楽用耐久財		59
579		テレビ	15
580		携帯型オーディオプレーヤー	1
581		電子辞書	1
582		ビデオレコーダー	4
583		パソコン（デスクトップ型）	8
584		パソコン（ノート型）	14
585		プリンタ	2
586		カメラ	4
587		ビデオカメラ	2
588		ピアノ	5
589		学習用机	3
590	教養娯楽用品		210
591	文房具		22
592		ボールペン	5
593		ノートブック	12
594		はさみ	5
595	運動用具類		52
596		ゴルフクラブ	8
597		グローブ	1
598		テニスラケット	2
599		釣ざお	11
600		トレーニングパンツ	15
601		水着	6
602	玩具	競技用靴	9
603			21
604		家庭用ゲーム機（据置型）	1
605		家庭用ゲーム機（携帯型）	1
606		ゲームソフト	4
607		人形	3
608		玩具自動車	5
609	切り花	組立玩具	8
610			31
611		切り花（カーネーション）	8
612		切り花（きく）	15
613	他の教養娯楽用品	切り花（バラ）	8
614			84
615		記録用ディスク	1
616		メモリーカード	1
617	ペットフード（ドッグフード）	コンパクトディスク	4
618		ビデオソフト	4
619		ペットフード（ドッグフード）	12
620		ペットフード（キャットフード）	10
621		ペットトイレ用品	12
622		鉢植え	14
623		園芸用土	6
624		園芸用肥料	8
625		電池	5
626		プリンタ用インク	7
627	書籍・他の印刷物		128

含類 総連番	名称		ウエイト (一万分比)
628	新聞代		88
629		新聞代	88
630		新聞代（地方・ブロック紙）	35
631		新聞代（全国紙）	54
632	雑誌		11
633		月刊誌	9
634		週刊誌	2
635	書籍		28
636		辞書	1
637		単行本A	11
638	教養娯楽サービス	単行本B	16
639			592
640		宿泊料	113
641	バック旅行費	宿泊料	113
642			42
643		外国バック旅行費	42
644	月謝類		103
645		講習料（英会話）	12
646		講習料（書道）	9
647		講習料（音楽）	20
648		講習料（ダンス）	13
649		講習料（水泳）	37
650		講習料（料理）	2
651		自動車講習料	12
652		他の教養娯楽サービス	334
653	放送受信料		80
654		放送受信料（NHK）	42
655		放送受信料（ケーブル）	33
656		放送受信料（NHK・ケーブル以外）	6
657	入場・観覧・ゲーム代		128
658		映画観覧料	12
659		演劇観覧料	12
660		サッカー観覧料	1
661	他の娯楽サービス	プロ野球観覧料	4
662		ゴルフ練習料金	7
663		ゴルフプレー料金	32
664		ボウリングゲーム代	5
665		ボール使用料	5
666		フィットネスクラブ使用料	17
667		文化施設入場料	9
668		テーマパーク入場料	20
669		カラオケルーム使用料	4
670			126
671	写真プリント代		11
672		ビデオソフトレンタル料	4
673		インターネット接続料	79
674		ウェブコンテンツ利用料	5
675		獣医代	19
676		ペット美容院代	8
677	諸雑費		574
678	理美容サービス		118
679		入浴料	14
680		理髪料	29
681		パーマメント代	22
682		カット代	30
683		ヘアカラーリング代	13
684		エステティック料金	9

付録 1 指数品目及びウエイト一覧（全国）

含類 総連番	名称	ウエイト (一万分比)
685	理美容用品	145
686	理容器具	9
687	電気かみそり	5
688	歯ブラシ	5
689	石けん類	41
690	化粧石けん	3
691	ボディークリーム	8
692	洗顔料	5
693	シャンプー	10
694	ヘアコンディショナー	7
695	歯磨き	8
696	化粧品	95
697	整髪料	6
698	養毛剤	5
699	化粧クリームA	19
700	化粧クリームB	8
701	化粧水A	15
702	化粧水B	7
703	乳液A	7
704	乳液B	2
705	ファンデーションA	9
706	ファンデーションB	4
707	口紅A	3
708	口紅B	2
709	ヘアカラーリング剤	8
710	身の回り用品	66
711	かばん類	45
712	バッグA	15
713	バッグB	15
714	通学用かばん	9
715	旅行用かばん	6
716	腕時計・指輪	13
717	指輪	3
718	腕時計	10
719	他の身の回り用品	8
720	傘	5
721	ハンカチーフ	3
722	たばこ	44
723	たばこ（国産品）	29
724	たばこ（輸入品）	15
725	他の諸雑費	201
726	傷害保険料	127
727	保育所保育料	53
728	介護料	16
729	行政証明書手数料	1
730	パスポート取得料	1
731	振込手数料	1
732	警備料	2

(注) 「名称」欄に*のある品目は、沖縄県のみで調査している品目である。

付録2 基本分類の構成品目

大分類	中分類	小分類	品目			
食料	穀類	米類	うるち米	[うるち米A	うるち米B]	もち米
		パン	食パン	あんパン	カレーパン	
		麺類	ゆでうどん 中華麺	干しうどん *ゆで沖縄そば	スパゲッティ	カップ麺
		他の穀類	小麦粉	もち		
	魚介類	生鮮魚介	まぐろ さけ ぶり あさり	あじ さば いか かき（貝）	いわし さんま たこ ほたて貝	かつお たい えび
		塩干魚介	塩さけ 煮干し	たらこ ししゃも	しらす干し いくら	干しあじ
		魚肉練製品	揚げかまぼこ	ちくわ	かまぼこ	
		他の魚介加工品	かつお節 塩辛	魚介漬物	魚介つくだ煮	魚介缶詰
	肉類	生鮮肉	牛肉（国産品） 鶏肉	牛肉（輸入品）	豚肉A	豚肉B
		加工肉	ハム	ソーセージ	ベーコン	*ボーク缶詰
	乳卵類	牛乳・ 乳製品	牛乳	牛乳（配達）	牛乳（店頭売り）	
			乳製品	粉ミルク チーズ（輸入品）	ヨーグルト	バター
		卵	鶏卵			チーズ（国産品）
	野菜・海藻	生鮮野菜	キャベツ レタス さつまいも にんじん ながいも かぼちゃ ピーマン にがうり	ほうれんそう ブロッコリー じゃがいも ごぼう しょうが きゅうり 生しいたけ *とうが	はくさい もやし さといも たまねぎ えだまめ なす えのきたけ	ねぎ アスパラガス だいこん れんこん さやいんげん トマト しめじ
		乾物・ 加工品類	乾物・海藻	干しいたけ ひじき	干しのり	わかめ
			大豆加工品	豆腐	油揚げ	納豆
			他の野菜・ 海藻加工品	こんにゃく キムチ	梅干し こんぶつくだ煮	だいこん漬 野菜缶詰
	果物	生鮮果物	りんごA オレンジ ぶどうB メロン さくらんぼ	りんごB しらぬひ 柿 いちご	みかん 梨 桃 バナナ	グレープフルーツ ぶどうA すいか キウイフルーツ
		果物加工品	果物缶詰			

付録２ 基本分類の構成品目

大分類	中分類	小分類	品目			
食料（続き）	油脂・調味料	油脂	食用油 マーガリン			
		調味料	食塩 酢 ドレッシング 風味調味料 合わせ調味料	しょう油 ソース ジャム ふりかけ バスタソース	みそ ケチャップ カレールウ たれ	砂糖 マヨネーズ 乾燥スープ つゆ
	菓子類		ようかん ケーキ ロールケーキ キャンデー チューインガム	まんじゅう ゼリー せんべい チョコレート	だいふく餅 プリン ビスケット アイスクリーム	カステラ シュークリーム ポテトチップス 落花生
	調理食品	主食的調理食品	すし（弁当）A おにぎり 調理ピザパイ	すし（弁当）B 調理パン	弁当A 冷凍調理ピラフ	弁当B 調理パスタ
		他の調理食品	うなぎかば焼き からあげ 冷凍調理ハンバーグ 焼き魚	サラダ ぎょうざ 調理カレー きんぴら	コロッケ やきとり 混ぜごはんのもと 焼豚	豚カツ 冷凍調理コロッケ 煮豆
	飲料	茶類	緑茶	紅茶	茶飲料	
		コーヒー・ココア	インスタントコーヒー	コーヒー豆	コーヒー飲料A	コーヒー飲料B
		他の飲料	果実ジュース 乳酸菌飲料	果汁入り飲料 ミネラルウォーター	野菜ジュース スポーツドリンク	炭酸飲料 豆乳
	酒類		清酒 ウイスキー ビール風アルコール飲料	焼酎 ワイン（国産品）	ビール ワイン（輸入品）	発泡酒 チューハイ
	外食	一般外食	うどん（外食） スパゲッティ（外食） カレーライス（外食） しょうが焼き定食（外食） ハンバーグ（外食） ピザパイ（配達） ビール（外食）	日本そば（外食） すし（外食）A 牛丼（外食） 焼肉（外食） ドーナツ（外食） やきとり（外食）	中華そば（外食） すし（外食）B 豚カツ定食（外食） フライドチキン（外食） ハンバーガー（外食） コーヒー（外食）A	* 沖縄そば（外食） 天丼（外食） ぎょうざ（外食） サンドイッチ（外食） コーヒー（外食）B
		学校給食	学校給食（小学校）	学校給食（中学校）		
	住居	家賃	民営家賃	民営家賃		
公営・都市再生機構・ 公社家賃			公営家賃	都市再生機構・公社家賃		
持家の帰属家賃			持家の帰属家賃			
設備修繕・ 維持		設備材料	システムバス カーポート	温水洗浄便座 修繕材料	給湯機	システムキッチン
		工事その他の サービス	畳替え代 植木職手間代 壁紙張替費	水道工事費 ふすま張替費 火災・地震保険料	塀工事費 大工手間代	外壁塗装費 駐車場工事費

付録２ 基本分類の構成品目

大分類		中分類	小分類	品目				
光熱・水道	電気代			電気代				
	ガス代			都市ガス代 プロパンガス				
	他の光熱			灯油				
	上下水道料			水道料 下水道料				
家具・家事用品	家庭用耐久財		家事用耐久財	電子レンジ 電気掃除機 電気洗濯機（洗濯乾燥機）		電気炊飯器 電気洗濯機（全自動洗濯機） ガステーブル 電気冷蔵庫		
			冷暖房用器具	ルームエアコン 温風ヒーター		空気清浄機		
			一般家具	整理だんす 食堂セット		食器戸棚		
	室内装備品			室内時計 照明器具	カーペット カーテン			
	寝具類			ベッド 布団カバー	布団 毛布	敷布		
	家事雑貨		食器類	茶わん 皿				
			台所用用品	台所用密閉容器 スポンジたわし		水筒 鍋	フライパン	
			他の家事雑貨	電球・ランプ タオル		マット	物干し用ハンガー	
	家事用消耗品		ティッシュ・トイレットペーパー	ティッシュペーパー トイレットペーパー				
			洗剤	台所用洗剤 洗濯用洗剤				
			他の家事用消耗品	ラップ 柔軟仕上剤		ポリ袋 芳香・消臭剤 殺虫剤 キッチンペーパー	防虫剤	
	家事サービス		家事代行料	家事代行料				
			清掃代	リサイクル料金 浄化槽清掃代				
			他の家事サービス	モップレンタル料				
	被服及び履物	衣料	和服		婦人用着物 婦人用帯			
			洋服	男子用洋服	背広服（春夏物、中級品） 背広服（秋冬物、中級品） 男子用上着 男子用ズボン（春夏物） 男子用ズボン（ジーンズ）		背広服（春夏物、普通品） 背広服（秋冬物、普通品） 男子用ズボン（秋冬物） 男子用コート 男子用学校制服	
				婦人用洋服	婦人用スーツ（春夏物、中級品） 婦人用スーツ（秋冬物、中級品） ワンピース（春夏物） ワンピース（秋冬物） スカート（秋冬物） 婦人用スラックス（秋冬物） 婦人用スラックス（ジーンズ）		婦人用スーツ（春夏物、普通品） 婦人用スーツ（秋冬物、普通品） 婦人用上着 スカート（春夏物） 婦人用コート 女子用学校制服	
子供用洋服				男児用ズボン 女児用スカート		乳児服		

付録 2 基本分類の構成品目

大分類	中分類		小分類	品目			
被服及び履物（続き）	シャツ・セーター・下着類	シャツ・セーター類	男子用シャツ・セーター類	ワイシャツ（長袖） 男子用スポーツシャツ（半袖）	ワイシャツ（半袖） 男子用スポーツシャツ（半袖）	男子用スポーツシャツ（長袖） 男子用セーター	
			婦人用シャツ・セーター類	ブラウス（長袖） 婦人用セーター（長袖）	ブラウス（半袖） 婦人用セーター（半袖）	婦人用Tシャツ（長袖）	婦人用Tシャツ（半袖）
			子供用シャツ・セーター類	子供用Tシャツ（長袖） 子供用Tシャツ（半袖）			
		下着類	男子用下着類	男子用シャツ（半袖）	男子用パンツ	男子用パジャマ	
			婦人用下着類	ブラジャー	婦人用ショーツ	ランジェリー	
			子供用下着類	子供用シャツ			
	履物類			男子靴 サンダル	婦人靴 スリッパ	子供靴	運動靴
	他の被服			帽子 婦人用ストッキング	ネクタイ 婦人用ソックス	マフラー ベルト	男子用靴下
	被服関連サービス			洗濯代A	洗濯代B	履物修理代	被服賃借料
	保健医療	医薬品・健康保持用摂取品			総合かぜ薬 ビタミン剤B 目薬 健康保持用摂取品B	解熱鎮痛剤 ドリンク剤 漢方薬	胃腸薬 皮膚病薬 鼻炎薬
保健医療用品・器具			紙おむつ（乳幼児用） コンタクトレンズ用剤 血圧計	紙おむつ（大人用） マスク 補聴器	生理用ナプキン 眼鏡 サポーター	入浴剤 コンタクトレンズ	
保健医療サービス			診療代 予防接種料	出産入院料	マッサージ料金	人間ドック受診料	
交通・通信	交通			鉄道運賃（ＪＲ） 鉄道運賃（ＪＲ以外） 一般路線バス代 有料道路料	〔普通運賃（ＪＲ） 通学定期（ＪＲ） 通勤定期（ＪＲ以外） 高速バス代 〔高速自動車国道料金 都市高速道路料金〕	料金（ＪＲ、在来線） 通勤定期（ＪＲ） 通学定期（ＪＲ以外） タクシー代 都市高速道路料金〕	料金（ＪＲ、新幹線） 通勤定期（ＪＲ以外） 航空運賃
		自動車等関係費	自動車	軽乗用車 普通乗用車B	小型乗用車A	小型乗用車B	普通乗用車A
	自転車		自転車A	自転車B			
	自動車等維持		ガソリン 自動車整備費（定期点検） 自動車オイル交換料 レンタカー料金 自動車保険料（自賠責）	自動車タイヤ 自動車点検 車庫借料 洗車代 自動車保険料（任意）	自動車バッテリー 自動車整備費（バンク修理） 駐車料金 ロードサービス料	カーナビゲーション 自動車免許手数料	
		通信		はがき 運送料	封書 固定電話機	通信料（固定電話） 携帯電話機	通信料（携帯電話）

付録２ 基本分類の構成品目

大分類	中分類	小分類	品目					
教育	授業料等		P T A会費（小学校） 高等学校授業料（私立） 幼稚園保育料（公立）	P T A会費（中学校） 大学授業料（国立） 幼稚園保育料（私立）	中学校授業料（私立） 大学授業料（私立） 専修学校授業料（私立）	高等学校授業料（公立） 短期大学授業料（私立）		
	教科書・ 学習参考教材		教科書	学習参考教材				
	補習教育		補習教育（小学校）	補習教育（中学校）	補習教育（高校・予備校）			
教養娯楽	教養娯楽用 耐久財		テレビ ビデオレコーダー プリンタ 学習用机	携帯型オーディオプレーヤー パソコン（デスクトップ型） カメラ ビデオカメラ	電子辞書 パソコン（ノート型） ピアノ			
	教養娯楽用品	文房具	ボールペン	ノートブック	はさみ			
		運動用具類	ゴルフクラブ トレーニングパンツ	グローブ 水着	テニスラケット 競技用靴	釣ざお		
		玩具	家庭用ゲーム機（据置型） ゲームソフト	人形	家庭用ゲーム機（携帯型） 玩具自動車	組立玩具		
		切り花	切り花（カーネーション）		切り花（きく）	切り花（バラ）		
		他の教養娯楽用品	記録型ディスク ペットフード（ドッグフード） ペットトイレ用品 電池	メモリーカード 鉢植え プリンタ用インク	コンパクトディスク ペットフード（キャットフード） 園芸用土 園芸用肥料	ビデオソフト		
	書籍・ 他の印刷物	新聞代	新聞代	[新聞代（地方・ブロック紙）		新聞代（全国紙）]		
		雑誌	月刊誌	週刊誌				
		書籍	辞書	単行本 A	単行本 B			
	教養娯楽 サービス	宿泊料	宿泊料					
		バック旅行費	外国バック旅行費					
		月謝類	講習料（英会話） 講習料（水泳）	講習料（書道） 講習料（料理）	講習料（音楽） 自動車教習料	講習料（ダンス）		
		他の 教養娯楽 サービス	放送受信料	放送受信料（NHK）	放送受信料（ケーブル）	放送受信料（NHK・ケーブル以外）		
			入場・観覧・ ゲーム代	映画観覧料 ゴルフ練習料金 フィットネスクラブ使用料 カラオケルーム使用料	演劇観覧料 ゴルフプレー料金	サッカー観覧料 ボウリングゲーム代 文化施設入場料	プロ野球観覧料 プール使用料 テーマパーク入場料	
			他の娯楽 サービス	写真プリント代 獣医代	ビデオソフトレンタル料 ペット美容院代	インターネット接続料	ウェブコンテンツ利用料	

付録 2 基本分類の構成品目

大分類	中分類	小分類	品目			
諸雑費	理美容サービス		入浴料 ヘアカラーリング代	理髪料 エステティック料金	パーマネント代	カット代
	理美容用品	理容器具	電気かみそり	歯ブラシ		
		石けん類	化粧石けん ヘアコンディショナー	ボディーソープ 歯磨き	洗顔料	シャンプー
		化粧品	整髪料 化粧水 A ファンデーション A ヘアカラーリング剤	養毛剤 化粧水 B ファンデーション B	化粧クリーム A 乳液 A 口紅 A	化粧クリーム B 乳液 B 口紅 B
	身の回り用品	かばん類	バッグ A	バッグ B	通学用かばん	旅行用かばん
		腕時計・指輪	指輪	腕時計		
		他の身の回り用品	傘	ハンカチーフ		
	たばこ		たばこ（国産品）	たばこ（輸入品）		
	他の諸雑費		傷害保険料 バスポート取得料	保育所保育料 振込手数料	介護料 警備料	行政証明書手数料

(注1) 「品目」欄に*のある品目は、沖縄県のみで調査している品目である。
(注2) 「品目」欄で[]内にある品目は、品目の更に下位の項目として調査している品目である。

付録２ 基本分類の構成品目

《別掲項目》

別掲項目	品目
生鮮食品	生鮮魚介 生鮮野菜 生鮮果物
生鮮食品を除く総合	(総合) - (生鮮食品)
生鮮食品を除く食料	(食料) - (生鮮食品)
持家の帰属家賃を除く総合	(総合) - (持家の帰属家賃)
持家の帰属家賃を除く住居	(住居) - (持家の帰属家賃)
持家の帰属家賃を除く家賃	(家賃) - (持家の帰属家賃)
持家の帰属家賃及び生鮮食品を除く総合	(総合) - (持家の帰属家賃) - (生鮮食品)
エネルギー	電気代 都市ガス代 プロパンガス 灯油 ガソリン
食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合	(総合) - (食料) + (酒類) - (エネルギー)
教育関係費	教育の全品目 学校給食の全品目 文房具の全品目 男子用学校制服 女子用学校制服 通学定期（ＪＲ） 通学定期（ＪＲ以外） 学習用机 通学用かばん
教養娯楽関係費	学習用机、文房具及び自動車教習料を除く教養娯楽の全品目 普通運賃（ＪＲ） 料金（ＪＲ、在来線） 料金（ＪＲ、新幹線） 普通運賃（ＪＲ以外） 一般路線バス代 高速バス代 航空運賃 旅行用かばん
情報通信関係費	通信料（固定電話） 通信料（携帯電話） 放送受信料（ＮＨＫ） 放送受信料（ケーブル） 放送受信料（ＮＨＫ・ケーブル以外） インターネット接続料 ウェブコンテンツ利用料
生鮮食品及びエネルギーを除く総合	(総合) - (生鮮食品) - (エネルギー)

付録3 財・サービス分類の構成品目

分類			品目			
財	農水畜産物	生鮮商品	まぐろ さけ ぶり あさり 牛肉（輸入品） 鶏卵 ねぎ アスパラガス だいこん れんこん さやいんげん トマト しめじ りんごB しらぬひ 柿 いちご 切り花（カーネーション）	あじ さば いか かき（貝） 豚肉A キャベツ レタス さつまいも にんじん ながいも かぼちゃ ピーマン にがうり みかん 梨 桃 バナナ 切り花（きく）	いわし さんま たこ ほたて貝 豚肉B ほうれんそう ブロッコリー じゃがいも ごぼう しょうが きゅうり 生しいたけ *とうが グレープフルーツ ぶどうA すいか キウイフルーツ 切り花（バラ）	かつお たい えび 牛肉（国産品） 鶏肉 はくさい もやし さといも たまねぎ えだまめ なす えのきたけ りんごA オレンジ ぶどうB メロン さくらんぼ 鉢植え
		他の農水畜産物	うるち米A	うるち米B	もち米	
	工業製品	食料工業製品	食パン 干しうどん *ゆで沖縄そば たらこ ししゃも かまぼこ 魚介缶詰 ペーコン 粉ミルク チーズ（輸入品） こんぶ 納豆 はくさい漬 果物缶詰 しょう油 ソース ジャム ふりかけ バスタソース カステラ シュウクリーム ポテトチップス 落花生 弁当A 冷凍調理ピラフ サラダ ぎょうざ 調理カレー きんぴら 茶飲料 コーヒー飲料B 炭酸飲料 豆乳 発泡酒 チューハイ	あんパン スバゲッティ 小麦粉 しらす干し いくら かつお節 塩辛 *ボーク缶詰 ヨーグルト 干しいたけ ひじき こんにゃく キムチ 食用油 みそ ケチャップ カレールウ たれ ようかん ケーキ ロールケーキ キャンデー チューインガム 弁当B 調理バスタ コロッケ やきとり 混ぜごはんのもと 焼豚 インスタントコーヒー 果実ジュース 乳酸菌飲料 清酒 ウイスキー ビール風アルコール飲料	カレーパン カップ麺 もち 干しあじ 揚げかまぼこ 魚介漬物 ハム 牛乳（配達） バター 干しのり 豆腐 梅干し こんぶつくだ煮 マーガリン 砂糖 マヨネーズ 乾燥スープ つゆ まんじゅう ゼリー せんべい チョコレート すし（弁当）A おにぎり 調理ビザバイ 豚カツ 冷凍調理コロッケ 煮豆 緑茶 コーヒー豆 果汁入り飲料 ミネラルウォーター 焼酎 ワイン（国産品） 健康保持用摂取品A	ゆでうどん 中華麺 塩さけ 煮干し ちくわ 魚介つくだ煮 ソーセージ 牛乳（店頭売り） チーズ（国産品） わかめ 油揚げ だいこん漬 野菜缶詰 食塩 酢 ドレッシング 風味調味料 合わせ調味料 だいふく餅 プリン ビスケット アイスクリーム すし（弁当）B 調理パン うなぎかば焼き からあげ 冷凍調理ハンバーグ 焼き魚 紅茶 コーヒー飲料A 野菜ジュース スポーツドリンク ビール ワイン（輸入品） 健康保持用摂取品B

付録3 財・サービス分類の構成品目

分類			品目			
財 (続き)	工業製品 (続き)	繊維製品	カーテン 布団カバー 背広服（春夏物、中級品） 男子用上着 男子用コート 婦人用スーツ（春夏物、普通品） 婦人用スーツ（秋冬物、普通品） 婦人用上着 婦人用スラックス（秋冬物） 婦人用コート 乳児服 男子用スポーツシャツ（長袖） 男子用セーター 婦人用Tシャツ（半袖） 子供用Tシャツ（半袖） ブラジャー 帽子 婦人用ストッキング トレーニングパンツ	布団 タオル 背広服（春夏物、普通品） 男子用ズボン（春夏物） 男子用学校制服 スカート（春夏物） 女子用学校制服 ワイシャツ（長袖） ブラウス（長袖） 婦人用セーター（長袖） 男子用シャツ（半袖） 婦人用ショーツ ネクタイ 婦人用ソックス 水着	毛布 婦人用着物 背広服（秋冬物、中級品） 男子用ズボン（秋冬物） 婦人用スーツ（春夏物、中級品） 婦人用スーツ（秋冬物、中級品） ワンピース（春夏物） スカート（秋冬物） 婦人用スラックス（ジーンズ） 男児用ズボン ワイシャツ（半袖） 男子用スポーツシャツ（半袖） ブラウス（半袖） 婦人用セーター（半袖） 男子用パンツ ランジェリー マフラー マスク ハンカチーフ	敷布 婦人用帯 背広服（秋冬物、普通品） 男子用ズボン（ジーンズ） ワンピース（秋冬物） ワンピース（秋冬物） 女児用スカート 婦人用Tシャツ（長袖） 子供用Tシャツ（長袖） 男子用バジャマ 子供用シャツ 男子用靴下 サポーター
		石油製品	プロパンガス	灯油	ガソリン	
		他の工業製品	システムバス カーポート ガステーブル 電気洗濯機（全自動洗濯機） 温風ヒーター 食器戸棚 ベッド 水筒 電球・ランプ トイレットペーパー ポリ袋 芳香・消臭剤 子供靴 ベルト ビタミン剤A はり薬 紙おむつ（乳幼児用） コンタクトレンズ用剤 補聴器 普通乗用車A 自動車タイヤ 携帯電話機 電子辞書 パソコン（ノート型） ピアノ はさみ 釣ざお ゲームソフト 記録型ディスク ペットフード（ドッグフード） ペットトイレ用品 プリンタ用インク ボディソープ 歯磨き 化粧クリームB 乳液B 口紅B 通学用かばん 傘	温水洗浄便座 修繕材料 電気冷蔵庫 空気清浄機 室内時計 茶わん 鍋 マット 台所用洗剤 殺虫剤 キッチンペーパー 運動靴 総合かぜ薬 ビタミン剤B 目薬 紙おむつ（大人用） 眼鏡 軽乗用車 普通乗用車B 自動車バッテリー テレビ ビデオレコーダー プリンタ 学習机 ゴルフクラブ 競技用靴 人形 メモリーカード 園芸用土 電気かみそり 洗顔料 整髪料 化粧水A ファンデーションA ヘアカラーリング剤 旅行用かばん たばこ（国産品）	給湯機 電子レンジ 電気掃除機 電気洗濯機（洗濯乾燥機） 整理だんす 照明器具 皿 フライパン 物干し用ハンガー 洗濯用洗剤 防虫剤 男子靴 サンダル 解熱鎮痛剤 ドリンク剤 漢方薬 生理用ナプキン コンタクトレンズ 小型乗用車A 自転車A カーナビゲーション 携帯型オーディオプレーヤー パソコン（デスクトップ型） カメラ ボールペン グローブ 家庭用ゲーム機（据置型） 玩具自動車 コンパクトディスク ペットフード（キャットフード） 歯ブラシ シャンプー 養毛剤 化粧水B ファンデーションB バググA 指輪 たばこ（輸入品）	システムキッチン 電気炊飯器 ルームエアコン 食堂セット カーペット 台所用密閉容器 スポンジたわし ティッシュペーパー ラップ 柔軟仕上げ剤 婦人靴 スリッパ 胃腸薬 皮膚病薬 鼻炎薬 入浴剤 血圧計 小型乗用車B 自転車B 固定電話機 ビデオカメラ ノートブック テニスラケット 家庭用ゲーム機（携帯型） 組立玩具 ビデオソフト 電池 化粧石けん ヘアコンディショナー 化粧クリームA 乳液A 口紅A 口紅B バググB 腕時計
		電気・都市ガス・水道	電気代	都市ガス代	水道料	
		出版物	教科書 新聞代（全国紙） 単行本A	学習参考教材 月刊誌 単行本B	新聞代（地方・ブロック紙） 週刊誌 辞書	

付録3 財・サービス分類の構成品目

分類			品目			
サービス	公共サービス	外食	学校給食（小学校）	学校給食（中学校）		
		公営・都市再生機構・公社家賃	公営家賃	都市再生機構・公社家賃		
		家事関連サービス	火災・地震保険料 自動車保険料（自賠責）	下水道料 自動車保険料（任意）	リサイクル料金 傷害保険料	自動車免許手数料 行政証明書手数料
		医療・福祉関連サービス	診療代	保育所保育料	介護料	
		運輸・通信関連サービス	普通運賃（ＪＲ） 通勤定期（ＪＲ） 一般路線バス代 高速自動車国道料金 通信料（固定電話）	料金（ＪＲ、在来線） 普通運賃（ＪＲ以外） 高速バス代 都市高速道路料金 運送料	料金（ＪＲ、新幹線） 通勤定期（ＪＲ以外） タクシー代 はがき	通学定期（ＪＲ） 通勤定期（ＪＲ以外） 航空運賃 封書
		教育関連サービス	高等学校授業料（公立）	大学授業料（国立）	幼稚園保育料（公立）	幼稚園保育料（私立）
		教養娯楽関連サービス	放送受信料（ＮＨＫ） ブール使用料	放送受信料（ケーブル） 文化施設入場料	放送受信料（ＮＨＫ・ケーブル以外） パスポート取得料	
	一般サービス	外食	うどん（外食） スパゲッティ（外食） カレーライス（外食） フライドチキン（外食） ハンバーガー（外食） コーヒー（外食）Ａ	日本そば（外食） すし（外食）Ａ 牛丼（外食） ぎょうざ（外食） サンドイッチ（外食） コーヒー（外食）Ｂ	中華そば（外食） すし（外食）Ｂ 豚カツ定食（外食） ハンバーグ（外食） ピザバイ（配達） ビール（外食）	* 沖縄そば（外食） 天丼（外食） しょうが焼き定食（外食） 焼肉（外食） ドーナツ（外食） やきとり（外食）
		民営家賃	民営家賃			
		持家の帰属家賃	持家の帰属家賃			
	他のサービス	家事関連サービス	畳替え代 植木職手間代 壁紙張替費 洗濯代Ａ 自動車整備費（バンク修理） 駐車料金 理髪料 エステティック料金	水道工事費 ふすま張替費 家事代行料 洗濯代Ｂ 修理 洗車代 パーマネット代 振込手数料	塀工事費 大工手間代 浄化槽清掃代 服物修理代 自動車オイル交換料 ロードサービス料 カット代 警備料	外壁塗装費 駐車場工事費 モップレンタル料 自動車整備費（定期点検） 車庫借料 入浴料 ヘアカラーリング代
		医療・福祉関連サービス	出産入院料	マッサージ料金	人間ドック受診料	予防接種料
		教育関連サービス	P.T.A会費（小学校） 大学授業料（私立） 補習教育（中学校）	P.T.A会費（中学校） 短期大学授業料（私立） 補習教育（高校・予備校）	中学校授業料（私立） 専修学校授業料（私立）	高等学校授業料（私立） 補習教育（小学校）
		通信・教養娯楽関連サービス	被服賃借料 外国バック旅行費 講習料（ダンス） 映画観覧料 ゴルフ練習料金 テーマパーク入場料 インターネット接続料	レンタカー料金 講習料（英会話） 講習料（水泳） 演劇観覧料 ゴルフプレー料金 カラオケルーム使用料 ウェブコンテンツ利用料	通信料（携帯電話） 講習料（書道） 講習料（料理） サッカー観覧料 ボウリングゲーム代 写真プリント代 獣医代	宿泊料 講習料（音楽） 自動車教習料 プロ野球観覧料 フィットネスクラブ使用料 ビデオソフトレンタル料 ペット美容院代

付録３ 財・サービス分類の構成品目

＜別掲項目＞

別掲項目	品目					
米類	うるち米A	うるち米B	もち米			
耐久消費財	システムバス 電気炊飯器 電気洗濯機（洗濯乾燥機） 食堂セット コンタクトレンズ 普通乗用車B 携帯型オーディオプレーヤー パソコン（ノート型） 電気かみそり	温水洗浄便座 ガステーブル 食器戸棚 掃除器 自転車A 自転車B 電子辞書 プリンタ 腕時計	給湯機 電気冷蔵庫 ルームエアコン 照明器具 軽乗用車 自転車B 電子辞書 カメラ	システムキッチン 電気掃除機 温風ヒーター カーペット 小型乗用車A 固定電話機 ビデオレコーダー ビデオカメラ	カーポート 電気洗濯機（全自動洗濯機） 空気清浄機 ベッド 小型乗用車B 携帯電話機 パソコン（デスクトップ型） ピアノ	電子レンジ 整理だんす 眼鏡 普通乗用車A テレビ パソコン（デスクトップ型） 学習用机
半耐久消費財	マスク及びサポーターを除く繊維製品の全品目 修繕材料 鍋 婦人靴 血压計 グローブ 家庭用ゲーム機（携帯型） 記録型ディスク 単行本B 傘	室内時計 フライパン 子供靴 自動車タイヤ テニスラケット メモリーカード バッグA	茶わん 電球・ランプ 運動靴 自動車バッテリー 釣ざお ゲームソフト コンパクトディスク バッグB	皿 マット サンダル カーナビゲーション 競技用靴 人形 ビデオソフト 通学用かばん	台所用密閉容器 物干し用ハンガー スリッパ はさみ 家庭用ゲーム機（据置型） 玩具自動車 辞書 旅行用かばん	水筒 男子靴 ベルト ゴルフクラブ 組立玩具 単行本A 指輪
非耐久消費財	農水畜産物の全品目 電気代 ディシュペーパー 殺虫剤 解熱鎮痛剤 はり薬 生理用ナプキン 教科書 ペットフード（キャットフード） プリンタ用インク 歯ブラシ 歯磨き 化粧水B 口紅B	都市ガス代 トイレトペーパー 防虫剤 胃腸薬 目薬 入浴剤 学習参考教材 新聞代（地方・ブロック紙） 化粧石けん 整髪料 乳液A ヘアカラーリング剤	食料工業製品の全品目 プロパンガス 台所用洗剤 柔軟仕上げ剤 ビタミン剤A 漢方薬 コンタクトレンズ用剤 ボールペン ペットトイレ用品 新聞代（全国紙） ポディソーブ 養毛剤 乳液B たばこ（国産品）	灯油 洗濯用洗剤 芳香・消臭剤 ビタミン剤B 鼻炎薬 マスク ノートブック 園芸用土 新聞代（全国紙） 洗顔料 化粧クリームA ファンデーションA たばこ（輸入品）	水道料 ラップ キッチンペーパー ドリンク剤 紙おむつ（乳幼児用） サポーター ペットフード（ドッグフード） 園芸用肥料 月刊誌 シャンプー 化粧クリームB ファンデーションB	スポンジたわし ポリ袋 総合かぜ薬 皮膚病薬 紙おむつ（大人用） ガソリン 電池 週刊誌 ヘアコンディショナー 化粧水A 化粧水A 口紅A
公共料金	公共サービスの全品目 教科書	たばこ（国産品）	電気・都市ガス・水道の全品目 たばこ（輸入品）			
生鮮食品を除く財	（ 財 ） － （ 生鮮食品 ）					
持家の帰属家賃を除くサービス	（ サービス ） － （ 持家の帰属家賃 ）					
民営家賃（木造）						
民営家賃（非木造）						
持家の帰属家賃（木造）						
持家の帰属家賃（非木造）						

付録4 消費者物価指数の閲覧及び入手先

インターネットでの閲覧・入手

消費者物価指数は、総務省統計局ホームページで提供しています。

総務省統計局 消費者物価指数

<http://www.stat.go.jp/data/cpi/index.htm>

消費者物価指数

検索

結果の概要は、統計メールニュースでも配信しています。

総務省統計局 統計メールニュースのお申込み

<http://www.stat.go.jp/info/mail/index.htm>

政府統計の総合窓口（e-Stat）でも各種統計情報が御覧いただけます。

政府統計の総合窓口（e-Stat）

<http://www.e-stat.go.jp/>

報告書の閲覧

総務省 統計図書館

〒 162-8668 東京都新宿区若松町 19-1

☎ 03 (5273) 1132

年報など消費者物価指数に関する各種報告書は、総務省の統計図書館のほか、国立国会図書館及び各支部、都道府県統計主管課並びに都道府県立図書館に配布されており、希望者は閲覧することができます。

付録 4 消費者物価指数の閲覧及び入手先

報告書の入手

一般財団法人 日本統計協会

〒 169-0073 東京都新宿区百人町 2-4-6 メイト新宿ビル 6 階

☎ 03 (5332) 3151

FAX 03 (5389) 0691

政府刊行物センター(霞が関)

〒 100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル 1 階

☎ 03 (3504) 3885

FAX 03 (3504) 3889

公表冊子を除く各種報告書は、全国各地の官報販売所でも取り扱っています。

集計結果を収録した電磁的記録 (MO、CD-R 等) の入手

公益財団法人 統計情報研究開発センター

〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5 階

☎ 03 (3234) 7471 (代表)

03 (3234) 7473 (データ提供担当窓口)

FAX 03 (3234) 7472

報告書などに掲載されたデータを引用・転載する場合には、出典(例：総務省「消費者物価指数」より引用)の表記をお願いします。

消費者物価指数のしくみと見方 －2015 年基準消費者物価指数－

平成 28 年 8 月発行

編集・発行



総務省統計局
Statistics Bureau,
Ministry of Internal Affairs
and Communications

〒 162-8668 東京都新宿区若松町 19-1

☎ 03 (5273) 1175
